

參考資料

参考資料[目次]

(参考資料 1)	長門湯本温泉に関する主な出来事のまとめ	1
(参考資料 2)	長門市の産業集積分析	2
(参考資料 3)	計画策定の経緯	3
(参考資料 4)	マスタープラン実現による経済効果の試算	1 3
(参考資料 5)	タイプ1に属する温泉地の事例分析	1 6
(参考資料 6)	タイプ2に属する温泉地の事例分析	2 0
(参考資料 7)	大寧寺や三ノ瀬を含めた広域での景観特性	2 2
(参考資料 8)	温泉ホテル及び旅館が立地する範囲での景観特性	2 3
(参考資料 9)	長門湯本温泉に現存する観光資源まとめ	2 5
(参考資料 10)	長門湯本温泉の有する資源の可能性評価	2 8
(参考資料 11)	整備計画策定エリアの景観特性	2 9
(参考資料 12)	空間構成への落とし込みの基本的な考え方	3 1
(参考資料 13)	現状のサインシステムについての分析	3 4
(参考資料 14)	現状の景観についての分析	3 6
(参考資料 15)	長門湯本温泉へのアクセス状況	5 6
(参考資料 16)	観光客の意識・行動による必要とされる 情報および情報提供手段・媒体	5 8

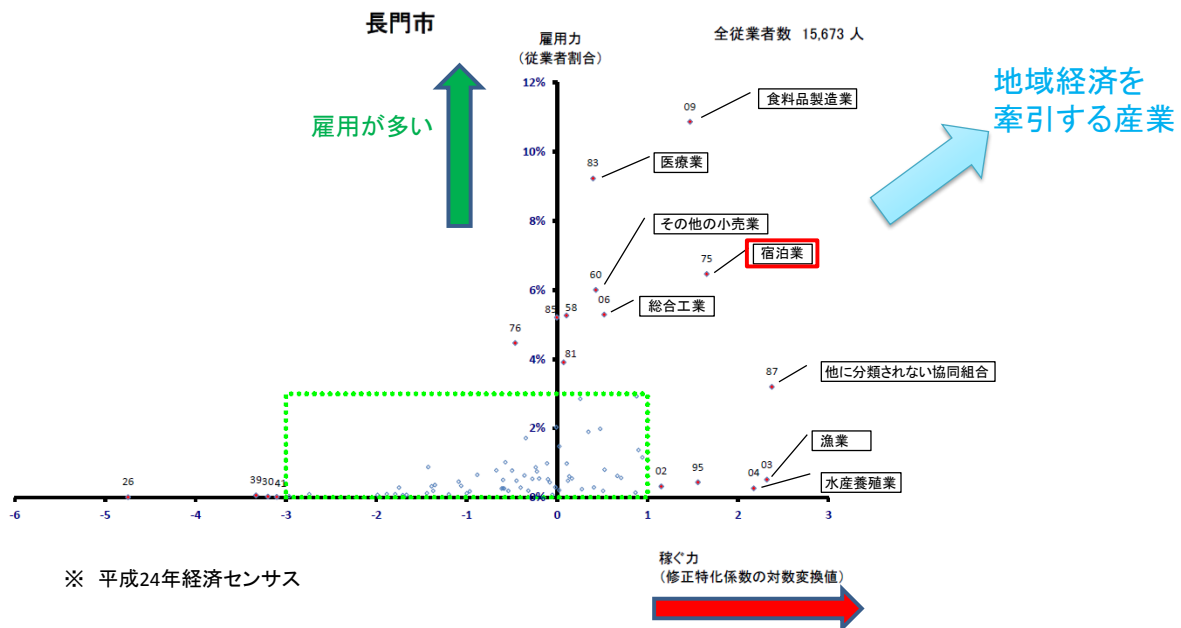
(参考資料 1) 長門湯本温泉に関する主な出来事のまとめ

1410 (応仁 17) 年	大内家の士族で長門守護代、深川城主の鷲頭弘忠 (わしのうずひろただ) が石屋真梁 (せきおくしんりょう) 禅師を開山として迎え、大寧寺を開創。
1427 (応永 34) 年	大寧寺第 3 世住職の定庵禅師が座禅のなか、住吉大明神のお告げにより湯本温泉が湧出。
1482～1573 年	興阿寺が開創。開基は三条実香といわれる。
1551 (天文 20) 年	大内義隆が家臣陶晴賢の謀反によって大寧寺で自刃し、大内家が滅亡。
江戸時代	長州藩の藩主も湯治に訪れる。
1653 (承応 2) 年	萩焼の陶工・蔵崎五郎左右衛門が同族の勘兵衛とともに、三ノ瀬の地に独立窯業を藩に願い出て許しを得る。
1657 (明暦 3) 年	朝鮮李朝の陶工・李勺光 (文禄、慶長の役の際に朝鮮から陶工・李勺光、弟の李敬が伴われ、「萩焼」が始まる。) の孫の山村平四郎光俊が三ノ瀬に移住。今後絶対に他国へ出向しないという念書を藩に提出し、「深川・三ノ瀬焼物所」が創業される。
1870 (明治 3) 年	新政府への反乱軍とともに行動していたと考えられる大寧寺第 45 世住職の簀運泰成禅師が愛知県豊川市の豊川稲荷妙厳寺に出奔亡命。
1924 (大正 13) 年	美禰線 (現・美祢線) 於福駅～正明市駅 (現・長門市駅) 間の延伸により長門湯本駅が開業。
1954 (昭和 29) 年	大津郡深川町、仙崎町、通村、俵山村が合併。市制施行し、「長門市」となる。
1961 (昭和 36) 年	大寧寺境内に、愛知県豊川稲荷を勧請し、長門豊川稲荷ができる。
高度成長期	旅館の大型化により多くの団体宿泊客を受け入れる体制となる。
1975 (昭和 50) 年	山陽新幹線岡山～博多間開通
1980 (昭和 55) 年	国道 316 号長門美祢間開通
1983 (昭和 58) 年	中国自動車道全線開通
1996 (平成 8) 年	きらきはしが完成
1997 (平成 9) 年	NHK 大河ドラマ「毛利元就」放映。毛利ブームをうけて 30 万人以上の宿泊客。
2002 (平成 14) 年	音信川河川公園が完成。 礼湯の改修。バリアフリー化。
2005 (平成 17) 年	長門市、大津郡三隅町、日置町及び油谷町が合併。新しい「長門市」となる。
2015 (平成 27) 年	NHK 大河ドラマ「花燃ゆ」放映。

(参考資料 2) 長門市の産業集積分析

観光産業は、地域の「稼ぐ力」を引き出し、生産性の高い、活力に溢れた地域経済の構築に重要な産業であることは言うまでもないが、特に長門市の産業構造を見た場合には、「宿泊業」の集積が進み、雇用吸収力も高いため、地域経済のけん引役を担っていると評価できる¹。

長門湯本温泉は、長門市全体の宿泊能力の約 7 割を構成²する長門市最大の宿泊地であり、長門湯本だけでなく、長門市全体の経済活力を高めていく上でも、長門湯本に宿泊客を始めとする観光客を引きこんでくることは極めて重要となる。



産業集積の分析による長門市産業構造の可視化

¹ あくまでも生産性を一律と仮定した場合であるが、産業別従業員数が人口当たりで全国平均を超える産業は、地域に外貨をもたらす原動力となる産業と言える。こうした産業の競争力を伸ばすことで、他の地域産業にも正の効果がもたらされることが分析されている。（総務省統計局「地域の産業・雇用創造チャートー統計で見る稼ぐ力と雇用力ー」参照）

² 平成 26 年宿泊旅行統計調査（観光庁）より長門市分析

(参考資料3) 計画策定の経緯

平成28年1月29日

長門湯本温泉マスタープラン策定業務報告会

場 所：湯本温泉旅館協同組合ビル2階会議室

参加者：旅館関係者（第一部）・地元住民、地元商店等（第二部）

内 容：マスタープランの策定にあたり、旅館関係者・地元住民、地元商店の方から、長門湯本の良さ、大事にしていること等の意見交換

平成28年4月25日

長門湯本温泉マスタープラン策定業務中間報告会

場 所：湯本観光ホテル西京 鳳凰の間

参加者：旅館関係者、地元住民、地元商店等

内 容：①目指すべき姿（全国の温泉ランキング TOP10）

②マスタープランのコンセプト（タイプ3（温泉街の魅力で集客する）・温泉街の6つの要素）

③具体的なデザイン案

※別紙①マスタープラン中間報告参加者アンケート

平成28年4月28日

湯本まちづくり協議会

場 所：湯本温泉旅館協同組合2階会議室

参加者：湯本まちづくり協議会会員

内 容：マスタープランの中間報告を受けての意見交換

平成28年6月23日

長門湯本温泉マスタープラン策定業務最終報告会

場 所：湯本観光ホテル西京 鳳凰の間

参加者：旅館関係者、地元住民、地元商店等

内 容：①旅行業界のプロフェッショナルからのアドバイスを踏まえた今後の検討事項の整理

②整備ステップ・スケジュール

③目標宿泊客数の予測

※別紙②マスタープラン中間報告参加者アンケート

平成28年7月4日、5日、6日、7日、9日、10日

長門湯本温泉マスタープラン説明会

場 所：大寧寺本堂

参加者：長門市民

内 容：①マスタープラン概要説明

②意見交換

平成28年7月8日

湯本まちづくり協議会

場 所：湯本温泉旅館協同組合2階会議室

参加者：湯本まちづくり協議会会員

内 容：マスタープランの最終報告を受けての意見交換

28年4月25日

1

（お住まい）

門前区 / 湯本区 / 三ノ瀬区 / 市内 / 市外
（ 6 名 ）（ 27 名 ）（ 1 名 ）（ 20 名 ）（ 2 名 ） 合計 56 名

（性 別）

男性 40 名 女性 16 名

（年 齢）

20 代以下 / 30 代 / 40 代 / 50 代 / 60 代 / 70 代 / 80 代以上
（ 3 名 ）（ 2 名 ）（ 8 名 ）（ 8 名 ）（ 21 名 ）（ 8 名 ）（ 6 名 ）

合計 56 名

2 提案に対する全体的な印象について

（全体的な感想、特に印象に残ったこと、その他）

20 代

- このプランを成功させる為の人。特に若い20代・30代の人の魅力をもって長門市で働く環境を作る必要が有ると思います。
まずは「成功したいでなく」→「成功させる」という強い意志の人を一人でも増やす必要があります。
- 魅力的なプランであった。是非実施して欲しい。否定的でなくけんせつ的に地域全体で、取り組んで欲しい
- 提案の内容、方向性としては良いと思う。具体的な要素を一つ一つ丁寧に説明されて聴衆として、イメージしやすかった。
星野リゾートさんはともかくとして、長門湯本側（行政）の意識がお任せ感たっぷりで、そののズレみたいなものを埋めて行かないと納得いく温泉街は作り込めないと思う。

30 代

- 大変魅力的なプランを、会場の皆様も夢をもったのではないかと思います。
社長が湯本を選んだ理由も伝わり、熱意もしっかり伝わった。これまで各地で運営をしてこられた経験が、マスタープランの山が1つ2つ3つまだまだあるとおっしゃっていただいたのが、具体的には、どんなことが山になる見込みがどうアプローチしていくか知りたいと思った。
- 詳細まで説明があつてわかりやすかったです。長門は対外発信がとても弱いと思うので、星野リゾートの力を借りて情報発信に強くなって欲しいです。インバウンドからの集客も狙っているとの事で、長門がインターナショナルな市になる様にとっても期待しています。
絶対中途半端に終わってほしくないなので、やり遂げて下さい。

40代

- 市長、自治体と地元の熱意で一体となり進めていくことが必要。
もっと地元当事者と情報交換の機会を設ける事が地元の熱意、モチベーションを維持する為に必要では。
- ・客の周遊の距離感をどう考えておられるのか？（東西南北）
 - ・老朽化・古家化した建物をどう考えるのか？
 - ・温泉街入口（国道316号線からの入れ込み）は対策しなくてよいのか？
 - ・川の対面の店等のまちなみ対策はどう考えるのか？
マスタープランに示していただきたいと考えます。
- ・星野社長の目標と覚情が確認出来たと思います。
 - ・活性化協議会にしても、マスタープランにしても計画は誰にでも出来ませんが、きちんと実現に向けての人、物、金を整えて確実に達成して欲しいと思います。
 - ・人気温泉地トップ10入り、絶対に実現させましょう。
- 素晴らしい。大変興味深く拝聴しました。
これから大変だとは思いますが、市民をまきこんで、前進してくれば嬉しいです。
- とても興味がもたれるプラン内容で、実現出来れば活性化につながるものを期待出来ます。ただ実現には行政をはじめとする地元との協力は不可欠だと思います。ぜひ思いが共有していただき、街の発展にお互いが協力できる体制づくりをお願いできればと思います。
- 希望がもてた。わくわくするする計画。成功するよう、地域としても主体的にかかわっていきたい。
- 私の生きているうちに実現したいですね。

50代

- ダメなものがありましたか。
他にダメなもの（柳、道の欄干はどうなのか）今あるもので、これはいいものだ、もっとのばせというものは。
- 星野社長はプロ。
我々一人一人が、強い意志をもって、その道のプロになることが重要。永く走り続けるには「熱」
- 星野リゾートが地域と一体となれる気がした。
最終報告を楽しみにしています。
- ・予算的な問題が？
 - ・市・市民が同じ感覚にならないと。
- 温泉の建てかえで、同じ場所では狭すぎる。小さすぎる。
更なる用地を含めるか、別の場所が良いのでは。温泉が枯れるという懸念による反対もある。

60代

- 街の中心にある温泉の建てかえは必要だと思っていました。自然の川を中心に歩けるようになっているけれども、もったいないです。
町の人が頑張ってもっと元気で、やる気がでた。
- オフシーズンの取りくみを考える。
年間通して、旬のものをを売り込む。

湯本温泉の回遊性・中心地にアートを。

看板の統一

名前（湯本温泉）をかえる。

- 長門市全体とのジョイントをどのように取り入れるのか、青海島・潮吹き等々
- 恩湯を中心にして、地域全体が儲かる方法をとること。
- まだ漠然としており、何ともいえない。
- 川に大水が出た時のことも考えて下さい。
- プレゼンが素晴らしい。十分に可能性を感じました。出来るだけ協力したい。
- 今日発表されたプランは、私も長年湯本に生活して来て、ずっと考えていた町に近いプランで、本当に夢のようでした。実現を強くのぞみます。一つ湯本のかなめである。湯の質を守ることを約束していただきたい。
- 妥協しない姿勢に期待したいと思います。発進力がたかまったところで、私共周辺部（油谷地区）の者も自分みがきしていきたいと思います。良い物があれば、リンクして発信して頂きたいと思います。
- 夢に向かって頑張っていて欲しい。
- とてもいいまちづくりになりそう。
- 長門市全体の知名度向上に汗を流してほしい。星野リゾートさんには長い将来にゆめだけでなく、実現に力を入れていただきたい。
- 湯本自治会で集会所を建てたいのですが、旧堂上福永あたりにとっているのですが、マスタープランの中に入れていただきたい。このマスタープランを市がやってもらえるのか。星野か、自治会でやるのか。
- 市が所有する土地のうち、手放す土地は全て？3分の2又・3分の1運営も考え、構築物が行政のリーダーシップは発想出来ますか。それとも湯本区に無料で提供できますか。
- 予想以上のプランに期待が高まります。
- ・具体化するには既存の建物の区画整備が必要になると思うが、市民はどう判断するのか
 - ・若い人の雇用はどうなるのか。
 - ・地元の生活権は確保されるのか。日々の生活・商店・生活の中の恩湯
 - ・地元湯本の人は幸せになれるのか。
 - ・美祢線の活用はどうなるのか。
- 3カ所をどうつなぐかを解決されてると感じました。きれいで、安全・安心な町にしたい、災害に強いにしたい。高齢者に優しい町にしたい。
- バスの発着場は？

70代

- 年を取っているので出来るだけ早くに実現することを望みます。
- 大寧寺方面の遊歩道はどうか。
- 駐車場から下りる道は、足の悪い人はどうか。
- 回遊することで湯本全体が良くなっていく原点だと思う。
- 恩湯の駐車場？湯量が少ないので止まった場合は？

- 焦点がクリアで説得力があった。コアゾーンの象徴的施設の中で重要なのは、私有施設「六角堂」という施設を中心に整備されるよう期待します。ゾーンの施設回遊として 機能させるべきだと思います。
- 全国トップ10に入るのだという強い意志・
湯本の集客が市内全域に波及するための施策を仙崎・青海島・中心街（夜のまち）
- 湯本温泉の発展のため長門温泉とかに名前を変える。湯本温泉と大寧寺を結ぶケーブルカーが欲しい。

80代

- 特に地域内の住民に配慮をお願いします。日常の生活に困らないよう。
- このまま進めて下さい。次回の発表期待しています。

28年6月23日

1

（お住まい）

門前区／湯本区／三ノ瀬区／市内／市外
（8名）（36名）（5名）（12名）（2名） 合計 63名

（性別）

男性 47名 女性 16名

（年齢）

20代以下／30代／40代／50代／60代／70代／80代以上
（2名）（6名）（5名）（9名）（28名）（10名）（3名）
合計 63名

2 提案に対する全体的な印象について

（全体的な感想、特に印象に残ったこと、その他）

20代

- 歴史的背景があったり、長門の価値を伝えていくのは市民であると感じた。星野リゾートにあくまで枠を作って頂いて、そこから広げる伝えるのは私たちであるのではないかと思います。
- 市民・住民の意思の統一をぜひ行ってもらいたいです。
- 今後、このマスタープランの実行には、様々な人が関わり、造りあげていくことが必要だと考えています。しっかりと関わっていきたいと思います。

30代

- マスタープラン（ハード・ソフト）の案、全ての実現を5年以内をお願いします。
- これが実現されれば、今までとは違う多くの集客が望めると思います。まだ、イメージがはっきりと思いうかばず、まだ現実味がないです。今までの事も大切にしなければいけないが、新しく変わらなければいけないことも多くあるのだと思いました。
- マスタープラン実現に向けて星野は何をするのか、湯本まちづくり協議会は何をするのか、行政は何をするのか具体的にすべきである。
- みなさん星野が実行してくれると思っているのでは？
- 礼湯の位置のこだわりは多数の意見なのでしょうか？
- 湯本の若い人でインセンティブをとれるような人物が必要。
- 期待出来る内容であり、今後の展開が楽しみです。
- 萩焼きも文化体験の核としていただくことにつきましては、深川窯、市内の陶芸家を含め、よく話をしなければならないかと思います。計画段階で、よく話をすることが大事だと思います。

それと、川の対岸の景観、規制について、長門温泉を表現する色、デザイン等をちゃんと専門の方に考えていただけるといいかなと思っています。

- ・一つでも早く、この整備を進めてほしい。
- ・メイン、動線の坂道は急になりすぎではないか。
- ・テラスや水遊び場もしてほしいが、大雨後の手入れが大変にならないようにした方がよい。
- ・盆踊り大会などイベントのやり方をどうしていくのか。

40代

- ・計画期間のすり合わせが必要。
 - ・地元用の風呂が必要では？
 - ・提案を理解し、横展開を進める。(地元、自治体、事業者)
- 税金がたくさん使われそうで恐いが・・・
- 折角なら結果を出せる街作りになるように期待しています。頑張ってください。
- 市は星野の計画にスピード感をもってついていけるのか？
- 予算を含めて計画を早く進めていかなければ夢物語になりかねないと思う。
- 星野代表のまちづくりの想いを具体化出来るように、実現まで監修して頂きたいと思います。

50代

- わくわくするようなマスタープランでした。実現するためにも、財源が必要になります。庁舎予算を少しまわせないでしょうか。
- 礼湯は移動してもいいのでは、素晴らしいプランだと思います。
- 楽しみにしています。
- 礼湯は移動した方がよい。ただ星野敷地内のため、反発があるのでは。我々地元若手？グループでは、県会議員、自治会長を含め、定期的に会合を開いている。全面的に星野案に乗って協力するつもりです。
- 最終報告を楽しみにしています。
- 礼湯の移転に反対なのは、若者にはいません。それを含めて、マスタープラン実行のスピードアップをお願いします。問題は、その数年間で既存の旅館等はあるのだろうか？外部からやる気のある方がどんどん入って来ることを祈っております。
- 行くべき場所への仲間入り。目標とスピード。
- 星野氏の強い意志を感じた。面白いこのプランに、私自身少しでも関わって行きたいと思います。
- 地方の方の協力を期待します。
- 入浴施設は移すべきではない。
- 温泉街の地域が一体となって、進めるかが、かぎと思う。

60代

- 前進のみ。
- 活気ある湯本温泉。笑顔がたくさん出て、人間ゆたかになるといいな。
- 地元の意見を取り入れて、すみやすくして下さい。すてきな湯本温泉になりますように。
- 湯本の駅をもっと中心に、近い所にしたらいいと思います。

- 駅の移動。
- 湯本の町が大きく変わるという事に希望を持っていますが、湯の質、量にも気を使っていたきたい。温泉は湯本の宝です。お願いします。
- 今の湯本温泉の湯が、末永く変わらない様にお願いします。
- 礼湯は、場所を変えてもいいと思います。人間は皆考えが違います。星野社長の志を貫くべきです。惑わされてはいけません。ファイトです。
- 各種団体、市民が一つの目的にどうチャレンジするのか。
- 星野のいいなりは反対。湯本らしさは残すこと。
- 湯本温泉そのものの開発がありがたいが、歴史ある公衆浴場の移動は絶対反対。
- 公衆浴場を利用している者です。上の湯は今のままで良いと思う。
- 長門湯本温泉マスタープラン基本的に反対（湯本の歴史、礼湯）
- 恩湯、礼湯が美となるのは賛成であるが、星野の敷地内に移設する事には反対を致します。地区住民が入れなくなるような移設には反対です。
- 湯本温泉の歴史を無視した計画には反対である。恩湯の前の道は残すべきである。もっと地元住民の意見を聞くべき。
- 礼湯移設反対。プランに描かれている礼湯を中湯復活としては。
- 湯本地区は大寧寺を中心として発展して来たので、門前、大寧寺のプランがもっと具体的に欲しいです。
- 湯巡りはいいと思うが、礼湯を星野リゾート敷地内に移動するのは反対。
- 星野の内湯であれば良い。
- 河川の中の飛び石、是非欲しい。大水の時に丈夫なように、「流れないように」
- ・実現に向けて頑張ってもらいたい。行政も勉強してもらいたい。
- ・地元の理解どこまでいけるか。時間かけても。
- ・税金どこまでとれるか。市長の力
- 湯本に集客する基本。地元の人々が行きたくなる公衆浴場（家族・若旧清音亭（現在 形ではない）付近の開発、歩道、リゾートの土地に運営まで。
- 是非実行させて欲しい。協力していきたい。
- 夢を見させていただきました。うまく進んでくれればいいですねえ。
- 地元の責任も重くなります。
- 大変素晴らしい提案だと思います。個々には出来るのかという思いはありますが、地域で、盛り上げられればいいですね。
- 大変良いプランですけど、早々実行されますよにお願いいたします。
- 星野社長の見方、考え方が立派。見習う必要がある。
- メイン、補助動線、駐車場、周辺の除草は大変そう。
- 実現出来れば良いなー。
- 素晴らしいマスタープランで、将来が楽しみです。
- 湯本温泉の開発は喜ばしいですが、歴史を簡単に移動したり、取り壊すことは慎重にして欲しい。駐車場・河川等については絵の通りになると、湯本温泉街も良くなると思います。何をするにも全員が賛成でないことは解りますが、湯本が良くなることは同じ思いであると思いますので、行政は地元としっかり協議しながら進めて欲しいと思います。後から話をするのではなく、問題があれば最初から対話を。

70代

- 湯本全体を良くすることに、道しるべ出発的として、マスタープランを最終報告を主に、多くのお客様を増やす全国人気温泉地にして欲しい。
- 今より良くなるのは間違いないと思います。
- 市長の話から「長門湯本温泉から長門を変える」の拠点は見えてこなかった。
- ・最終報告はとても素晴らしいと思う。しかしこのプランをどうしたら実現出来るかが今後の問題。
 - ・礼湯・恩湯は地元、近辺の住民利用者が多く、駐車場がとても遠くなるのでどうか。
 - ・プランに関係する地権者の方々の協力が大。
 - ・礼湯はそのまま、星野湯として、作られれば良いのでは。
- 温泉地の再生で、見逃せないのは、その土地の歴史を重要視することから始まるという観念からすれば、礼湯は星野リゾート「界」の敷地に移設することには同意しかねる。
- 礼湯の移転「星野敷地内絶対反対」まだ建替して年数がない。歴史的にも反対。考える要素がたくさん有り。
- 内容が充実していて迫力があつたと思います。計画の進展を祈ります。

80代

- ・マスタープランに大寧寺と豊川稲荷を組み入れが出来ないか。
 - ・イベント・劇場コース
 - ・海からの客が呼べないか。

(参考資料4) マスタープラン実現による経済効果の試算

① 経済効果の考え方

(直接経済効果の算出)

観光による経済効果は、
観光客数 × 平均旅行消費額
により算出する。

このため、宿泊客全体がもたらす年間経済効果は、
年間宿泊者数 × 平均宿泊旅行消費額
日帰り観光客がもたらす年間経済効果は、
年間日帰り観光客数 × 平均日帰り旅行消費額
により算出できる。

(目標達成による観光客数への寄与)

本計画に掲げる目標の達成による、観光客数の増加効果を試算する。
宿泊客数については、全国の人気温泉地に匹敵する定員稼働率として40%を目指すことと設定する。長門湯本温泉の客室容量から宿泊者数に換算すれば、年間33万人となる。
日帰り観光客数については、現状、年間40万人(平成27年)であるが、これを宿泊者数と同比率で増加させる目標とし、年間66万人を呼び込むことを目指す。

TOP10以内に入ることの効果予測

	宿泊者数	客室数	定員	定員稼働率
黒川温泉	29万人	521室	2,248人	35%
城崎温泉	59万人	1,267室	3,801人	42%
玉造温泉	64万人	885室	3,628人	48%
長門湯本 (現状)	18万人	734室	2,203人	22%
長門湯本 (目標)	33万人	784室	2,303人	40%

(図表10) 人気温泉地ランキング上昇による宿泊者数

（目標達成による観光消費への寄与）

本計画においては、上質な温泉地を目指すことにより、温泉街における消費を喚起し、満足度を高めていくことを目指す。現状、観光消費額については、宿泊、日帰りとも、山口県を訪れた観光客の平均観光消費額が、全国平均を下回る数字となっているが、これを全国平均レベルまで引き上げることとして試算する。

（市内経済への直接効果）

ただし、観光消費のすべてが市内経済に直接的に効果をもたらすと考えことは現実的でない。例えば、宿泊客の消費額の40%を占める交通費等は、市内事業者に直接裨益する割合は限定的と想定するのが現実的である。

他方で、長門湯本温泉に宿泊した顧客の消費した宿泊費はもちろんのこと、長門湯本温泉を訪問した観光客であれば、飲食費や土産代、入場料等への支出は、長門市内各地も含めた積極的な取組により、取りこんでいくことを目指せる性格のものである。

このため、観光客の消費額のうち、「宿泊費」、「飲食費」、「土産・買物」、「入場料等」を市内経済への直接効果として試算する。

（波及効果）

こうした市内経済への効果により、例えば旅館が市内一次産業者から食材を仕入れるなど、各産業に波及効果が生じる。全体的な波及効果について、総務省の提供する産業連関表を用いるが、こちらについても、実際に仕入れ先が市内にある場合は限定的であることから、平均的な市内仕入れ率¹を用いて市内への波及効果を試算する。

② 経済効果の試算

宿泊観光客、日帰り観光客それぞれでの試算について、以下に示す。

¹ 平成24年観光地域経済調査（観光庁）「主な仕入・材料費、外注費の支払先地域（法人、主な事業別）」より

長門湯本温泉の再生による経済波及効果(宿泊客)

直接経済効果

湯本**宿泊客**が及ぼす効果(宿泊客数×観光消費額)

⇒湯本温泉の再生により、宿泊客の量・質ともに上げ、観光消費額アップを目指す



宿泊客による観光消費額 17,589百万円					
宿泊費	25.1%	飲食費	13.1%	土産・買物	14.5%
		入場料等	5.8%	交通費	39.7%
				旅行会社収入	1.8%

湯本に直接効果 市内に取り込み得る 市外への流出が大半

出典：2014年旅行・観光消費動向調査(観光庁)

<宿泊客による直接効果>

宿泊費 ……17,589百万円×25.1% = 【A】4,414百万円

飲食費、土産・買物、入場料等 ……17,589百万円×33.4% = 【B】5,854百万円

⇒【C: (A+B)】10,268百万円(103億円)

波及効果

湯本宿泊客の観光消費による他の産業への波及効果174億円(産業連関表(総務省)により算出)

17,398百万円 × 市内での仕入れ等の割合 19.4%*1

⇒【D】3,375百万円(34億円)

総合効果

直接効果+間接波及効果

⇒【C+D】137億円

*1 出典：平成24年観光地域経済調査(観光庁)

長門湯本温泉の再生による経済波及効果(日帰客)

直接経済効果

湯本**日帰り客**が及ぼす効果(日帰り客数×観光消費額)

⇒湯本温泉の再生により、宿泊客の量・質ともに上げ、観光消費額アップを目指す



日帰り客による観光消費額 10,230百万円					
宿泊費	0%	飲食費	14.2%	土産・買物	21.6%
		入場料等	11.4%	交通費	51.9%
				旅行会社収入	0.9%

市内に取り込み得る 市外への流出が大半

出典：2014年旅行・観光消費動向調査(観光庁)

<日帰り客による直接効果>

飲食費、土産・買物、入場料等 ……10,230百万円×47.2%

⇒【A】4,828百万円(48億円)

波及効果

湯本日帰り客の観光消費による他の産業への波及効果81億円(産業連関表(総務省)により算出)

8,181百万円 × 市内での仕入れ等の割合 19.4%*1

⇒【B】1,587百万円(16億円)

総合効果

直接効果+間接波及効果

⇒【A+B】64億円

*1 出典：平成24年観光地域経済調査(観光庁)

(参考資料5) タイプ1に属する温泉地の事例分析

(1) 草津温泉（群馬県吾妻郡草津町）

○温泉

泉質は、酸性泉、含硫黄（アルミニウム・硫酸塩泉）、塩化物泉（硫化水素型）（酸性低張性高温泉）で、湧出量は 32,300L／分となっており自然湧出泉では全国 1 位である。また、酸性度が pH2.1 で非常に高い殺菌作用を有している。

草津には 6 つの源泉がある。温泉街の中央にある「湯畑」、温泉街から少し離れた高台にある「万代」、万代より下がったところにあるのが「西の河原」である。その他に「煮川」「白旗」、湯畑のように湯の花がよく見えるのが「地蔵」がある。

○湯畑

草津の温泉街の中心には、草津のシンボルとして有名な「湯畑」があり、そこでは 4000L／分のお湯が湧出している。草津の湯は非常に高温であるため 7 本の木樋に通し外気によって冷やし、最後には湯畑の橋の湯滝を流れ落ち、共同湯の「千代の湯」や各旅館に運ばれていく。

○湯もみ

「湯もみ」は、草津温泉の源泉は 51℃から 95℃以上もあるため、加水するのではなく六尺の板によって湯を攪拌し温度を下げ、お湯を柔らかくする草津独自の伝統的な入浴方法である。

湯畑の前にある熱乃湯では観光客に向けて湯もみショーや湯もみ体験が行われている。

○共同湯

白旗の湯、千代の湯、地蔵の湯など多くの共同湯がある。足湯施設も多く無料で利用することができる。現在町営の施設として、御座之湯、大滝乃湯、西の河原露天風呂の 3 つがあり、御座之湯は 2013 年に昔の風情を思わせる姿に再現された。

○温泉街

近年湯畑周りの新たな施設の建設に伴って、草津のまちづくりの見直しも行われ、建築のファサードや色彩、温泉の風情にそぐわない施設の撤去など積極的な取り組みが行われている。また、西の河原通り沿いなどは土産物屋が並び、温泉街の風情を感じさせるファサードを持った旅館などが軒を連ねている。



湯畑

- ・温泉街のシンボルで、観光客の誰もが目指す目的地となっている。



御座の湯

- ・町営の公衆浴場で 2013 年に再現された。

(2) 別府温泉（大分県別府市）

○温泉

別府温泉郷は、別府、浜脇、観海寺、堀田、明礬、鉄輪、柴石、亀川の別府八湯で構成されている。

源泉数は全国1位で2,600あり、日本全体の約9%になる。温泉湧出量も102,000L/minと日本最大で泉質は単純温泉、炭酸水素塩泉、塩化物泉、硫酸塩泉、含鉄泉、硫黄泉、酸性泉で、放射能泉と二酸化炭素泉以外すべてがあるため多種多様なお湯を楽しむことができる。湯の温度は60～100℃で42度以上の高温泉率は75%、日帰り入浴が可能な温泉施設は約400、共同浴場も154か所と全国でも圧倒的な数を誇っている。

○市営温泉

市営の温泉は、竹瓦温泉、永石温泉、海門寺温泉など市内に17カ所あり、いずれも100円以下の入湯料で利用することができる。

数ある市営温泉のなかでもひととき観光客を集める共同湯が竹瓦温泉である。明治12年の創設当初は竹屋根葺きであったが、その後瓦葺きの建物に改築された。現在の建物は昭和13年に建てられたもので、玄関の屋根には銅板葺きの唐破風がかかっている。大きな入母屋の瓦屋根で重厚感のある和風建築であり、国の登録有形文化財となっている。

○歴史

別府温泉郷の発展が本格的になったのは、明治に入ってからであるが、大正時代以降、先頭となって別府のPRに努めたのが油屋熊八である。四国宇和島の米問屋に生まれた熊八は大都市で事業を行ったのち、別府にて亀の井旅館を開業し、日本を代表する温泉街の礎を築いた。

1927年には、バスで鉄輪温泉の地獄めぐりを企画し翌年日本初の女性ガイドによる案内を始めた。

○その他

鉄輪は地獄地帯にあり、蒸気を利用した蒸し料理や無料の市営共同浴場なども楽しめる。蒸し湯や永福寺を含む温泉街の街並みは情緒があり散策に良い。



竹瓦温泉

- ・別府温泉の歴史ある共同湯で国指定の登録有形文化財となっている。



明礬温泉 湯の花小屋

- ・湯の花をつくる藁葺き小屋が地域のシンボルとなっている。

(出典：Wikimedia Commons/CC-BY-SA-3.0/STA3816)



鉄輪温泉 むし湯

- ・温泉の蒸気で身体を蒸す特徴的な温泉で、足蒸しもある。

(出典：Wikimedia Commons/CC-BY-SA-3.0/STA3816)

(3) 登別温泉（北海道登別市登別温泉町）

○温泉

支笏洞爺国立公園内にある登別地獄谷は、クッタラ火山の活動によってできた爆裂火口跡で、数多くの湧出口や噴気孔があり、時間をおいて噴出する間欠泉が見られる。

泉質は、硫黄泉、食塩泉、明礬泉（含アルミニウム泉）、芒硝泉（硫酸塩泉）、緑礬泉（含アルミニウム泉）、鉄泉（含鉄泉）、酸性鉄泉、重曹泉、ラジウム泉の9種類の泉質の湯が沸いており温泉のデパートと呼ばれる。また、湯量も多く10000t/日の湯が沸いておりその9割は自然湧出である。源泉の温度は45～90度で、ここから温泉街の各旅館ホテルへと湯が引かれている。

登別の語源はアイヌ語の「ヌプルベツ」からきており白く濁った川を意味する。昔から川の色が変わるほどの豊富な湯量を表している。

○歴史

温泉街の歴史は、安政4年近江商人の岡田半兵衛がその頃まだ道らしきものがなかったところに道路を整備したことからはじまる。その後、滝本金造が温泉宿を建て、現在の登別の温泉地の基礎を築いた。

日露戦争の頃には傷を負った兵士の保養地に指定されたことで全国的に広く知られるようになった。

○温泉街

温泉街はクスリサンベツ川沿いに広がり、中心は極楽通りと呼ばれる商店街である。登別のまちでは湯を守る「湯鬼神」を良く見かけるが、温泉街には7箇所11体の鬼像があり観光客を迎えている。

○イベント

夏にはこの鬼たちが手筒花火を打ち上げる「鬼花火」の行事などもある。

その他5～11月は鬼火の路、幻想と神秘の谷8月は登別地獄まつり、9月は登別漁港まつり、2月は登別温泉湯まつり、3月はカルルス温泉冬まつりなどが行われる。



地獄谷と遊歩道

・迫力ある自然景観が楽しめる観光名所である。

（出典：Wikimedia Commons, /CC-BY-SA-3.0/メルビル）



登別温泉街

・谷あいには旅館ホテルが立地している。

（出典：Wikimedia Commons/CC-BY-SA-3.0/User 樺）

(4) 箱根温泉（神奈川県足柄下郡箱根町）

○温泉

箱根には箱根二十湯といわれる、湯本、塔ノ沢、宮ノ下、堂ヶ島、底倉、木賀、芦ノ湯、姥子、ニノ平、小涌谷、大平台、強羅、宮城野、仙石原、湯ノ花沢、芦ノ湖、蛸川、早雲山、大涌谷、湖尻の温泉地がある。

最も歴史の古い湯本の開湯は奈良時代である。その後徐々に開発が進み、江戸時代には東海道の交通の要所である箱根関所が設けられ多くの人で賑わうようになる。現在でも東京の大都市圏からのアクセスも良く日帰りでの観光も含め2位の熱海に大きく差をつけ全国1位の観光客数を誇っている。

湯本・塔ノ沢で源泉数は79、温泉の湧出量は毎日8000t、約5300L/分、箱根全域では20000L/分と、豊富な湯量に恵まれている。箱根の温泉は泉質が多く、酸性硫酸塩泉、重炭酸塩硫酸塩泉、塩化物泉、塩化物重炭酸塩硫酸塩泉の4つに分類でき箱根湯本は、pH8.38～8.9のアルカリ性単純温泉である。

無味無臭の泉質のため多くの人に親しまれている。

○多くの見所

箱根には、大涌谷や芦ノ湖や仙石原などの自然、関所や旧東海道などの歴史、箱根神社や九頭龍神社などの寺社仏閣、彫刻の森美術館などの文化といった多くの見所があり、観光客を楽しませている。



箱根湯本温泉街

- ・湯本温泉駅近くには早川沿いを散策できる遊歩道がある。

(出典：Wikimedia Commons/CC-BY-2.0/Benn Garrett)



大涌谷

- ・箱根の観光名所のひとつである。



大涌谷の黒たまご

- ・大涌谷に来る人は必ず食べるといわれる名物の温泉卵である。



芦ノ湖遊覧船からみる九頭龍神社の鳥居

- ・女性に人気のパワースポットである。

(参考資料6) タイプ2に属する温泉地の事例分析

(1) 道後温泉（愛媛県松山市）

○温泉

泉質はアルカリ性単純泉、泉温は20～55℃である。現在18本の源泉から湯を汲み上げており、道後温泉本館や椿の湯、周辺の宿泊施設へ配湯している。湯量は約1970t/minである。

日本書紀や風土記によると有馬温泉、白浜温泉と並んで日本三古湯とされている。

共同湯は道後温泉本館と姉妹湯として新たに作られた椿の湯の2カ所、足湯や手湯は放生園など11カ所である。

○建築

「道後温泉本館」は道後温泉のシンボリック存在である。明治27年に建築され、平成6年に国の重要文化財に指定された。浴室建築として重要文化財に指定されたのは、この「道後温泉本館」が初めてである。さらに平成21年には経済産業省の「近代化産業遺産」にも認定されている。外観については、正面は瓦葺の入母屋の破風が幾重にも重なる重厚感のあるファサードを形成している。対して裏側は銅板葺きの破風が重なり軽快で優美な美しさを放っている。

最上部には「振鷲閣」という太鼓楼があり、朝夕6時と正午に時を告げている。振鷲閣の屋根の上には大きく羽を広げた白鷺の像があるが、これは道後温泉が一羽の白鷺が傷を癒していたことで温泉が発見されたという伝説に基づいたものである。本館1階には大衆浴室の「神の湯」と上等浴室の「霊の湯」がある。また東の端には日本で唯一の皇室専用浴室の「又新殿」がある。

○歴史

本館北側には「玉の石」が祀られているが、これは『伊予国風土記』にある大国主命が重病に苦しむ少彦名命を掌に乗せ湯に浸すと治ったとの記述によるもので、この2神を温泉の守護神として湯神社に祀られている。江戸時代には初代松山藩藩主松平定行によって諸設備が整備され、士族、僧侶用の一の湯、婦人用の二の湯、庶民男子用の三の湯、士人の妻子用の一五銭湯、旅客雑人用の十銭湯・養生湯。馬湯があった。四国遍霊場第51番札所の石手寺に近いこともあり、三日間は料金を徴収しないなどの優遇措置も行われていた。

○交流広場

以前の道後温泉本館周りは、浴衣姿の温泉客、タクシーやバス、旅館送迎車、一般車両が交錯するような場所であったが、隣接地を市が用地取得して外周部に迂回道路を設け歩行者のための広場化を行った。また、敷石には道後温泉の歴史の質感とバランスさせるために厚さ10cmの自然石が用いられている。



道後温泉本館

- ・国指定重要文化財で道後温泉のシンボルである。
 - ・近年周囲が石畳によって広場化された。
- (出典: Wikimedia Commons/CC-BY-SA-3.0/Jyo81)



放生園の足湯

- ・道後温泉駅の広場にある足湯。
 - ・道後温泉本館で使用されていた湯釜を再利用している
- (出典: Wikimedia Commons/CC-BY-SA-3.0/Mti)

(2) 下呂温泉（岐阜県下呂市湯之島）

○温泉

泉質はアルカリ性単純温泉、55℃で毎分 6000L もの豊富なお湯が湧出している。源泉が湧いている飛騨川の河原には噴泉池という露天風呂があり、一切囲いのない開放感のある中で川を眺めながら入浴することができる。現在では水着着用が義務付けられている。

温泉街の中には「鷺の足湯」「モリの足湯」「下留磨の足湯」「ビーナスの足湯」「雅の足湯」「ゆあみ屋の足湯」「田の神の足湯」など共同湯の足湯があり、無料で利用することができる。

湯めぐり手形を 1 枚 1300 円にて販売しており、24 の旅館のなかから手形 1 枚で 3 件のお湯に入ることができる。

○歴史

下呂温泉は10世紀初頭湯ヶ峰という山で発見されたとされるが、鎌倉時代にその湧出が途絶えてしまう。しかし、一羽の白鷺が河原で傷を癒していたことで湧出を発見したという白鷺伝説が伝わっている。室町時代には京都五山の僧万里集九が下呂温泉を訪れた際、著書に「天下の霊泉は草津、有馬、湯島（下呂）である」と記し、江戸時代には林羅山が「三名泉」として高く評価した。現在では白鷺橋の上に林羅山像が建立されている。

今でも温泉の熱源は湯ヶ峰山とされ、この山の溶岩は下呂石と呼ばれ黒色のガラス質で割れ口が刃物のように硬くて鋭いことから縄文時代の石器として利用された。

○建築

多くの温泉旅館があるなかで、歴史的な建物として評価されているのが市街地から離れた高台にある湯之島館本館である。

木造3階建てで三層の破風が重なり重厚感のあるファサードをつくっている。昭和6年に竣工、現在国の登録有形文化財になっている。複雑な平面に幾重にも重ねながら瓦屋根がかけられ、内部も細部にまで気を使った衣装が施され、技術の粋を感じることができる。

○イベント

年間通して様々なイベントが企画されている。

1月～3月毎週土曜日には冬の下呂温泉「花火物語」、4月には各地桜のライトアップ、8月は下呂温泉まつり、10月には地元飛騨牛が振る舞われる下呂温泉謝肉祭、クリスマスには Love and Peace キャンドルイルミネーション in 下呂温泉などがある。



下呂温泉の街並み

- ・ 山に囲まれた谷あいの街。

（出典：Wikimedia Commons/CC-BY-SA-3.0/663highland）



噴泉池

- ・ 飛騨川の河原にある開放感あふれる露天風呂。

（出典：Wikimedia Commons/ GFDL/Snap55）

(参考資料 7) 大寧寺や三ノ瀬を含めた広域での景観特性

山に囲まれた谷あい

本地域は山に囲まれた地形となっており、特に大寧寺や三ノ瀬では急峻な山に囲まれた谷地形が顕著である。谷の幅もおおむね200～300m前後の中景域となり、地域内のどこからでも山の緑の表情を感じることができる。

地域に潤いを与える川

本地域には音信川とその支流である大寧寺川と三ノ瀬川が流れている。川には岩場が点在し特徴的な河川景観を感じさせる。水の流れが速い区間も一部あるが概して穏やかな水の流れである。

また、音信川遊歩道など親水性を与える場が多く整備されているため、住民や観光客は比較的容易に川の水に触れることができる。

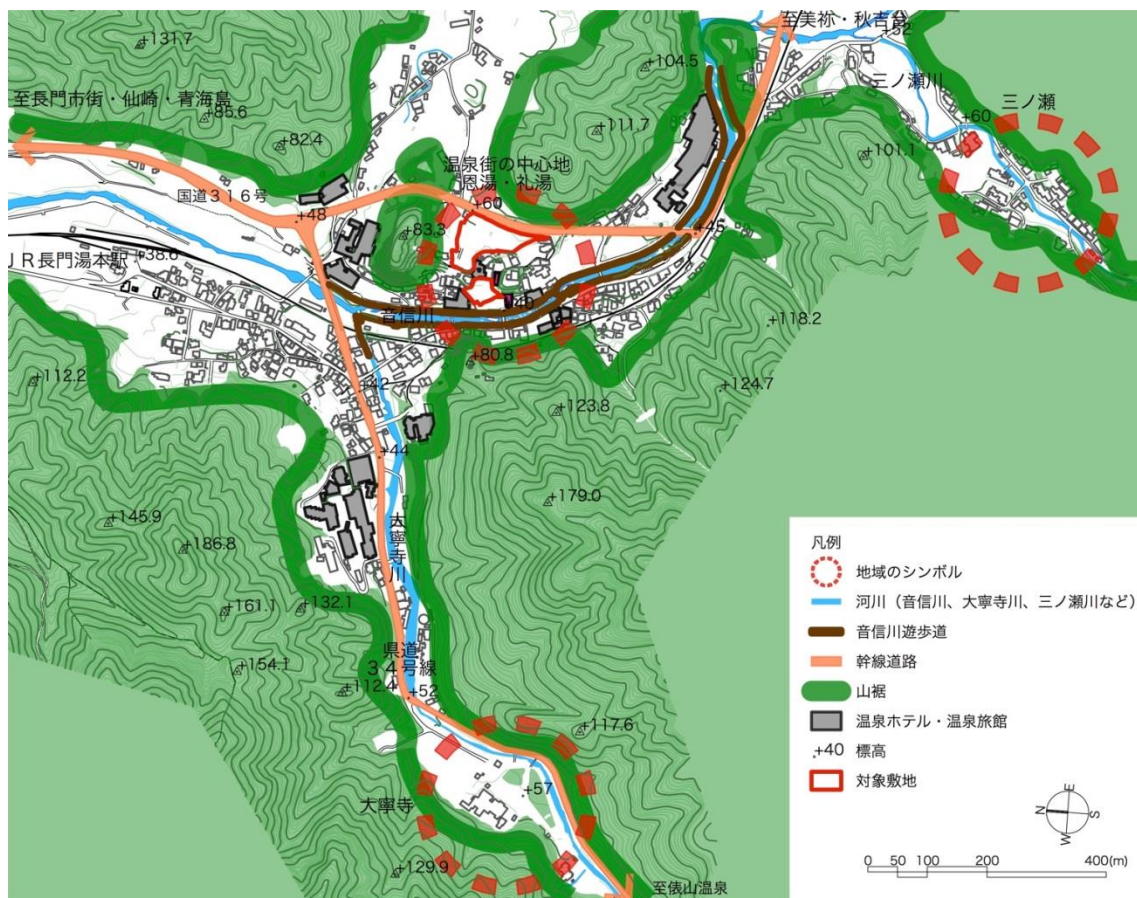
音信川はゲンジボタル発生地としても知られるとおり澄んだ清流が魅力である。

分散型の街

地域の中心は恩湯と礼湯を中心としたエリアとなるが、大寧寺や三ノ瀬はそれぞれ1km弱の距離があり、温泉ホテルや旅館も比較的分散された立地となっている。また、交通の拠点となるべきJR駅も離れた場所にあり、宿泊や観光拠点が分散されたタイプの温泉街といえる。

コンパクトなスケールの街

三ノ瀬やJR長門湯本駅付近では農地も多く、のどかな景観となっており、散策に適したスケール感の街となっている。



(参考資料 8) 温泉ホテル及び旅館が立地する範囲での景観特性

音信川と橋

地域の特徴的な景観のひとつに音信川に架かる多くの橋梁があげられる。大谷山荘前の観瀑橋から下流に向かい、国道 316 号の音信大橋、歩行者専用で橋梁の中央部に屋根があるきらきら橋、曙橋、松声橋、恩湯や礼湯へと至る千代橋、八千代橋、音信川河川公園へ連絡するせせらぎ橋、県道 34 号線の湯本大橋、そして門前橋と僅か 1 km の区間に 10 の橋が架かっている。また、音信川支流の大寧寺川においても、かじか橋、鶴声橋のほか玉仙閣や湯本観光ホテル西京の周辺にも橋が架けられており、各温泉ホテルや旅館への動線確保のほか兩岸地域のネットワーク化にも寄与している。

各橋梁からは河川を縦断的に眺める視点場としての性格も有しており、きらきら橋ではベンチが置かれている。湯本大橋は高い位置に架橋されているため、音信川上流を俯瞰することができる。

水面に近い音信川遊歩道からの眺め

音信川兩岸の道路と水面までの高低差は場所によって差があるが 3～5 m 程度である。これは全国にある河川沿いでみられる関係性であるが、音信川には上流の大谷山荘付近から下流の門前橋および支流の大寧寺川の鶴声橋まで遊歩道が整備され、水面に近い位置で川を眺めることができる。

兩岸の道路から遊歩道へ降りる階段も多く整備されており、住民や観光客の憩いの場となっている。

歴史や憩いの場などの観光資源が点在

いくつもの観光資源が 1 km 四方内の比較的小さなエリアに点在している。街のシンボルの恩湯と礼湯、音信川をはじめ、音信川遊歩道、足湯、音信川河川公園、大寧寺川水辺の広場といった憩いの場となる施設や、住吉神社、馬頭観音、孝子千代松の碑、俊寛の墓など歴史的な施設がある。

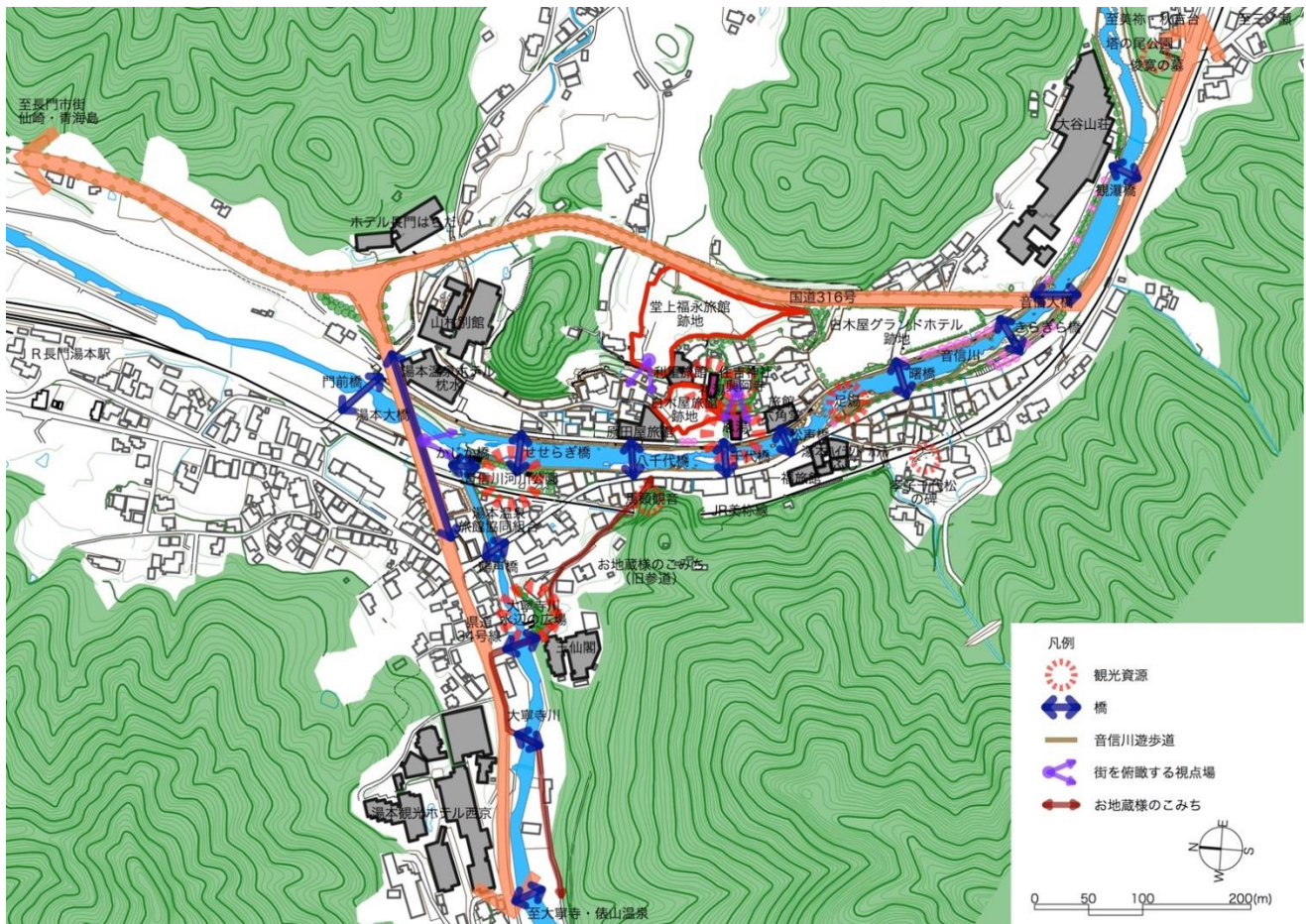
さらに、八千代橋付近から山裾をとおり大寧寺への旧参道は、「お地藏様のみち」として地元住民がお地藏様を大事に管理継承しており、地域の代表的な風景のひとつとなっている。

低層と中層が混在する街並み

地域の建物は、温泉ホテルや旅館などが中層の建物となっているが、大半は低層の商店や住宅となっている。

J R 美祢線車両の動きのある景観

地域の西側の山裾を走る J R 美祢線は 1～2 時間に上下それぞれ 1 本程度の運行と本数は少ないが、1～2 両編成の車両が行き交う様子は、車の行き交う状況とは異なり、のどかな印象を与える動きの景観となっている。



(参考資料 9) 長門湯本温泉に現存する観光資源まとめ

長門湯本温泉には、複数の観光資源が存在している。主な資源を以下にまとめる。

	恩湯 ・湯本温泉のシンボル。礼湯とともに湯本温泉の外湯（市営公衆浴場）。 ・源泉掛け流しの元湯といわれる。 ・住吉大明神からのお告げによって発見されたといわれる温泉。 ・源泉掛け流しの防長きっての名湯。
	礼湯 ・恩湯から坂をあがったところにあり、昔は礼湯を武士僧侶、下の恩湯を一般の人が使っていた。 ・住吉大明神からのお告げによって発見されたといわれる温泉。 ・2002（平成 14）年に改築され車椅子利用者も利用できる。
	大寧寺 ・1410 年当時の守護代、鷲頭弘忠創建と伝わる曹洞宗屈指の名刹。西の高野といわれる。 ・大内氏終焉の地。大内義隆公主従の墓がある。 ・春はサクラ、秋は紅葉の名所として知られる。 ・大寧寺川に架かる盤石橋は江戸時代前期のもので山口県三奇橋のひとつ。
	長門豊川稲荷 ・大寧寺境内にまつられている稲荷。 ・1961（昭和 36）年に愛知県妙巖寺の豊川稲荷の分霊を勧請して創建。
	萩焼深川窯 ・江戸時代のはじめ、毛利氏の萩城下松本村に朝鮮李朝の帰化陶工とその弟子たちによって萩藩の御用窯として萩焼が始まり、その半世紀後の 1657 年御用窯焼物師の主流が深川村三ノ瀬に移住して焼物所を創業。 ・現在 5 つの窯元が伝統を受継ぎ、操業している。
	住吉神社 ・公衆浴場「礼湯」の脇の丘上にある温泉ゆかりの古社。 ・長門の一の宮の住吉明神が大寧寺の 3 世住職定庵禅師の説教を聞いた御礼に「お湯が湧き出るようにする」と言っ温泉が与えられたと伝えられ、住吉明神がまつられている ・興阿寺が隣接する。
	音信川河川公園 ・湯本大橋のたもとの音信川（おとずれかわ）と大寧寺川の合流地点につくられた公園。 ・東屋、イベントステージ、足湯があるくつろぎのスペース。 ・「七つの子」「しゃぼん玉」などの童謡で知られる野口雨情の歌碑がある。

	音信川 ・山間の静かな温泉街をぬって流れる清流。 ・1768 年藩主おかかえの茶屋である清音亭で働く湯女が秘めた思いを文にして川に流した音信が川の由来といわれる。 ・「生活の中に生きる水辺 30 選」に認定されており、洗濯場跡地が残る。
	音信川遊歩道 ・音信川の兩岸河川敷に設置された遊歩道。 ・水面近くを歩くことができ親水性が高い。 ・途中には沈下橋を渡ることができる。
	足湯 ・音信川河川公園と音信川遊歩道内の 2 箇所。 ・散策で疲れた足をやさしく程良いお湯で癒やすことができる。 写真上：音信川遊歩道の足湯 写真下：音信川河川公園の足湯
	公衆洗濯場跡 ・恩湯の下、音信川遊歩道沿いにある。 ・大正初期に洗濯場として整備され、地元の人が温泉を利用して洗濯をした。 ・各家庭に電気洗濯機が普及した昭和 40～50 年代に使用されなくなる。 ・平成 9 年に音信川河川公園整備事業で改修。
	お地蔵様のこみち ・湯本温泉街から大寧寺へ向かう旧参道。 ・多くのお地蔵様がある静かな山辺の道。
	盤石橋 ・大寧寺の門前、大寧寺川に架かる石橋で、防長の三奇橋といわれる。 ・1668 年に建架され、のち 1764 年に再建架されたことが橋石に刻銘されている。 ・大小の自然石を組積したのみで架橋されており、当時の高度な技術がうかがえる。
	孝子千代松の墓 ・江戸後期の湯本の住民の千代松を顕彰する墓碑がある。 ・非常に孝行者である千代松は長年病床に臥していた老母を優しくいたわったことから、藩主がその孝心を厚く賞賛した。
	金子みすゞプロジェクト 2011 ・童謡詩人金子みすゞをモチーフとした蒲鉾板を用いたモザイク画。

	大寧寺川水辺の広場 ・玉仙閣付近にある大寧寺川沿いの広場。 ・山の緑と水を感じる広場。
	馬頭観音 ・お地蔵様のこみちを入った傍にある馬頭観音菩薩。
	塔の尾公園 ・別名、俊寛山ともいわれる丸山で山頂には俊寛の墓と伝えられる石碑がある。
	木屋川音信川ゲンジボタル発生地 ・国指定天然記念物ゲンジボタル発生地として古くから知られる地。 ・最盛期の6月中旬には名物のホタルの乱舞が見られる。
	J R 長門湯本駅 ・温泉街から北へ約500m離れた場所にあるJ Rの玄関口。

(参考資料 10) 長門湯本温泉の有する資源の可能性評価

※下記はあくまでも主だった資源として、本計画策定時に認識したものを例示するもので、他にも資源は存在し得る。

自然・地形	山に囲まれた谷の地形	温泉街の後方には山がそびえており、温泉街のどこからでも自然を感じることができる。
	音信川	長門湯本温泉に沿って流れる。豪雨の際は水かさが増すものの、通常時は水際で川の水と親しむことができる。ゲンジボタルが舞い、カジカの鳴き声が響く。 川に沿って配されている植栽や、川の岩場が魅力ある風景を作っている。
	高低差	国道 316 号線（高い）と音信川（低い）に高低差が存在する。高台に立つと温泉街を見渡すことができる。
	路地	国道 316 号線や音信川沿いの道路に対して、一本入り込んだ部分にはヒューマンスケールの路地が多数張り巡らされている。
	植栽	サクラ（音信川）、紅葉（大寧寺）等、季節を感じさせる植栽が存在する。
街	コンパクトな街	約 1km の川沿いに温泉旅館が立地しており、比較的容易に、温泉街の散策が可能なスケールである。
	中層から低層	中心部の温泉旅館は中層であるが、低層の建物が多く、落ち着いた街並みとなっている。
	歩行者ネットワーク	音信川沿いの遊歩道が整備されていること、路地空間が多数巡らされていること、川沿いに多くの橋が架けられていること等、歩行者が歩きやすい道が温泉街全体にネットワーク上に存在する。
文化	萩焼（深川焼）	萩藩の御用窯焼物師の主流が深川村三ノ瀬に移住して以降約 400 年という歴史を持ち、現在においても 5 つの窯元が伝統を受け継ぎ操業しているという歴史がある。「一楽、二萩、三唐津」といわれ、特に、萩焼の茶碗は高く評価されている。
	寺・神社	大寧寺（大内義隆終焉の地として有名）、住吉神社（温泉街の中心部に立地）
温泉	温泉資源	恩湯・礼湯という 2 つの外湯を持つ。恩湯は源泉 100% で加温・加水なし。 600 年前に住吉大明神のご神託により、発見され、江戸時代には長州藩の藩主も湯治に訪れたという歴史を持つ。
	足湯	音信川遊歩道沿い及び音信川河川公園内に 2 箇所の足湯が存在する。
食	水産資源	キジハタ、仙崎ぶとイカ、仙崎トロあじ、メイボ、イワシ、イサキ、メダイ、アワビ、サザエ、ちりめん、メザシ、平太郎、北浦うに、かまぼこなどの魚肉練り製品等
	農産物	長門ゆずきち、白オクラ、田屋なす、ハナッコリー、いちご、すいか、メロン、お米（棚田米など）
	肉	長州黒かしわ、焼鳥店（人口 1 万人あたり店舗数日本有数）、長州ながと和牛
	その他	お菓子、地酒

(参考資料 1 1) 整備計画策定エリアの景観特性

① 川と段々地形と坂の景観

音信川左岸は急峻な山裾が川近くまで迫っているため一区画裏はすぐに山となっている場所もある。

一方、音信川右岸では先人が自然石を利用して築いてきた段々状の宅盤が形成され特徴的な景観となっている。その宅盤を縫うように階段と坂道が展開され路地を歩く楽しさを感じることができる。

恩湯裏の小高い丘には住吉神社があり、川側からの階段を登ることになるが、あまりの急な階段がかえって魅力のひとつとして感じられる。

② 流と岩場

音信川は岩場の多い河川であるが、その岩場を利用して沈下橋を架け、兩岸の遊歩道を渡ることができる。また、広めの岩場には足湯が設置されるなど河川敷の広場として利用されている。足湯を利用する観光客に地元の人が声をかけたり、岩場を利用して観光客が清らかな川の水に触れるなどの光景が日常的に見られ、良好な河川景観を有している。

③ 水辺を歩ける楽しさ

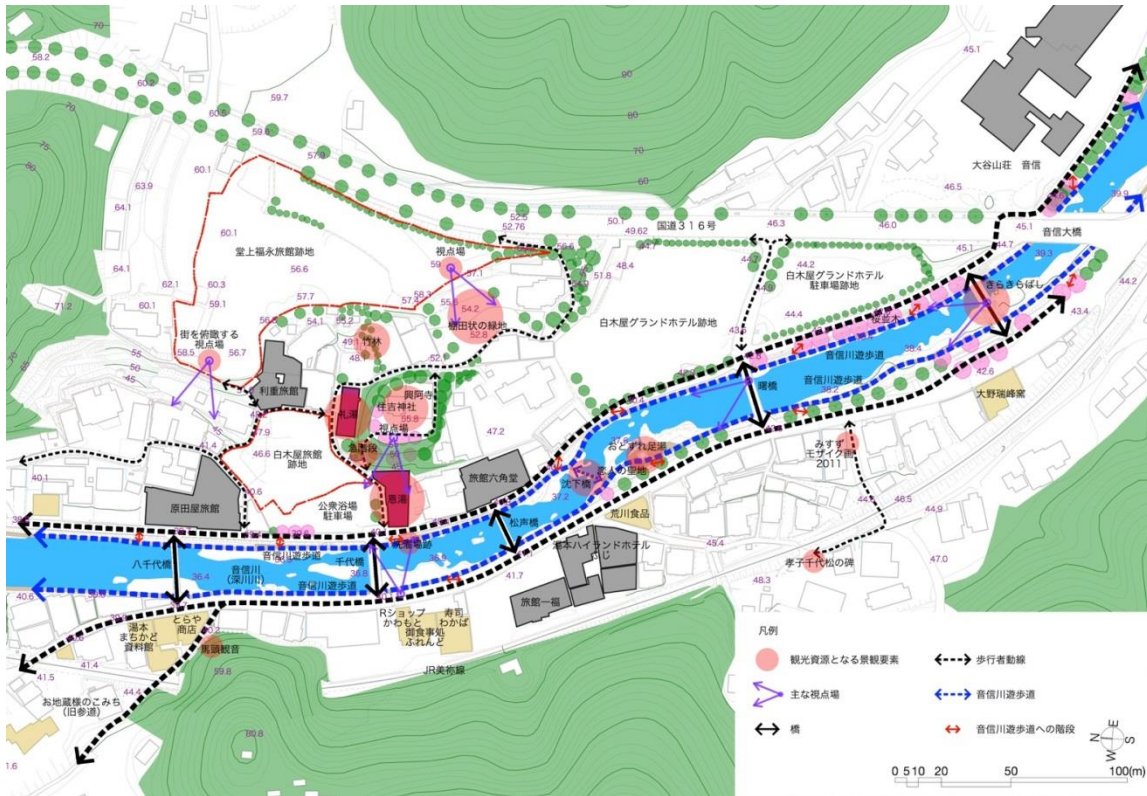
音信川の兩岸ともに約 1 k m にわたって水面に近い位置に自然石舗装が施された遊歩道が展開され、温泉ホテルや旅館、公園などを結んでいる。こうした事例は全国の温泉地としては極めて珍しく、当地区の特徴的な風景となっている。

④ 自然を感じる街

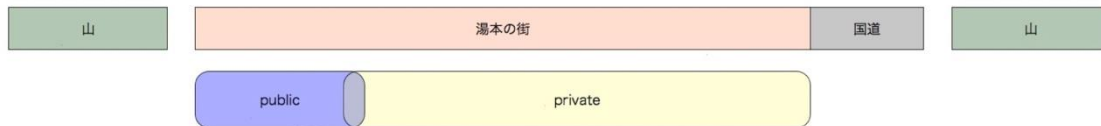
谷あいの街であるため山の樹木を感じることもみならず、河川沿いにはサクラなどの高木が植えられ、住宅の軒先には植木鉢に植えられた緑があり、季節感を演出する要素が多くみられる。

また、河川の護岸や宅盤の擁壁などでは玉石が多く見られ、長きにわたって先人が築いてきた街であることを感じさせてくれる。部分的にコンクリートなど合理的な材料もみられるが、まだ自然石による土地の造成の営みが多く残っている。

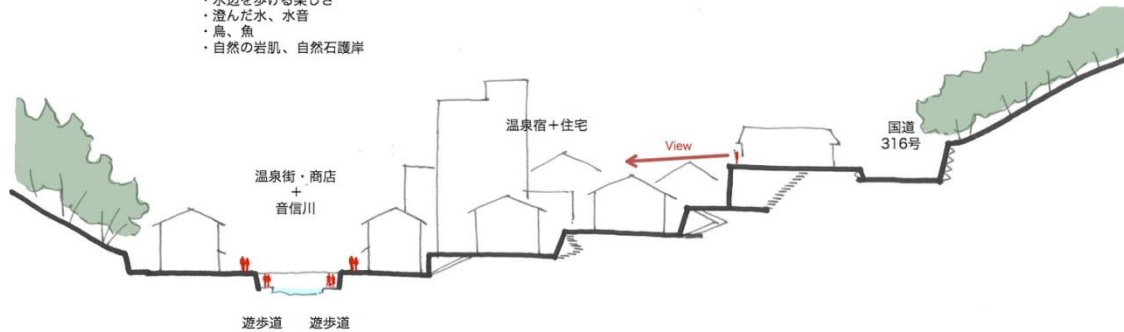
建物の屋根に使われる瓦も地域の特徴的な景観をつくりだしており、黄土色や赤土色の瓦屋根が美しい。



対象敷地周辺の景観特性図



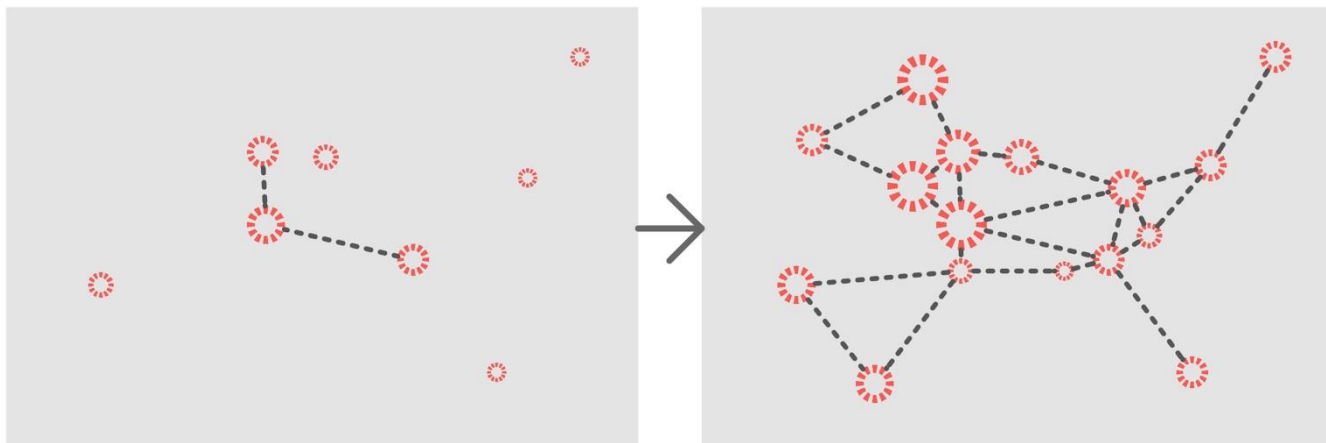
- ・温泉街の顔
- ・パブリックな場所
- ・メインストリート／広場的
- ・谷状の適度な街のスケール感
- ・どこか懐かしい雰囲気
- ・遊歩道、散歩道
- ・水辺を歩ける楽しさ
- ・澄んだ水、水音
- ・鳥、魚
- ・自然の岩肌、自然石護岸
- ・段々状の地形
- ・民家の間を抜ける小径、路地
- ・坂と階段（思いのほか辛い）
- ・民家の間から時々抜けて見える川や山
- ・民家との距離感
- ・あちこちに残る石積み
- ・幹線道路
- ・街はずれ
- ・段差や生垣で街の様子が見えない



対象敷地周辺の景観特性 断面図

(参考資料 1 2) 空間構成への落とし込みの基本的な考え方

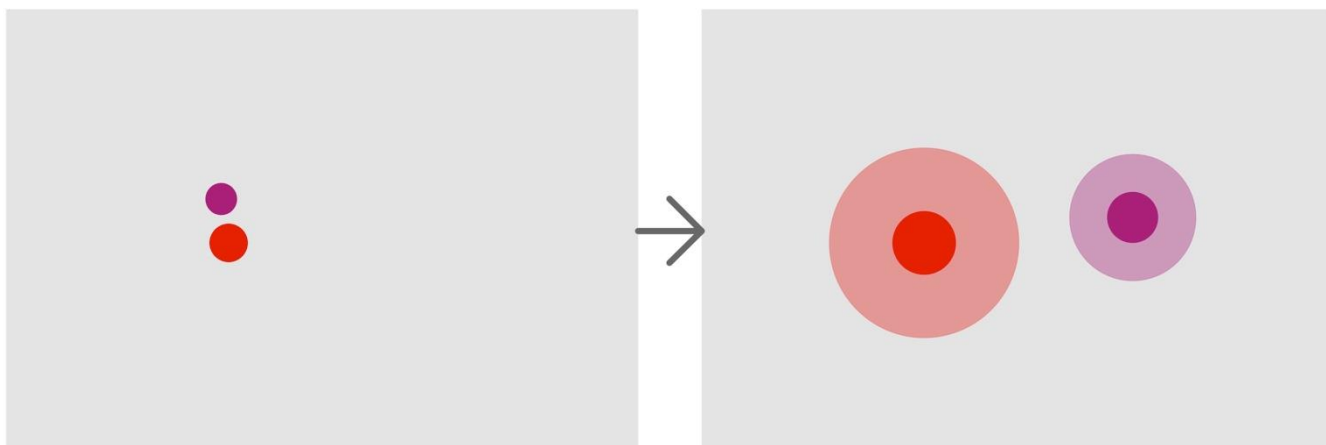
- ① 個々の観光資源の魅力をあげ、新たな資源を創出し、それらをネットワーク化することで回遊性を高める



- ・温泉街には観光資源が存在するが魅力が低い。
- ・温泉街を巡る回遊性に乏しい。

- ・既存の観光資源の魅力をより向上させる。
- ・文化体験など新規の観光資源を創出する。
- ・観光資源の魅力を体験して街の魅力を感じる。
- ・回遊動線を創出してネットワーク化を図る。

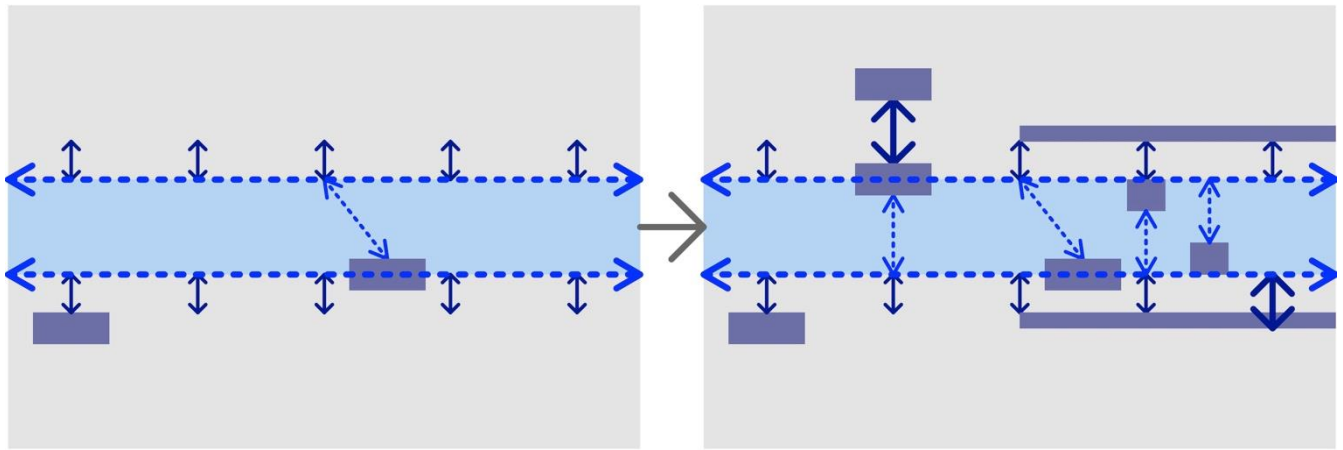
- ② 外湯（恩湯・礼湯）を再構成して、観光客が魅力を感じる温泉街とする



- ・観光客にとって恩湯と礼湯の魅力が低い。
- ・恩湯と礼湯が近接している。
- ・湯上がり処がない。

- ・外湯を再構成する（例：分散して2つの核とする）。
- ・恩湯を建て替えて魅力ある温泉建築とする。
- ・外湯を中心に店舗を含めた湯上がり処をつくる。

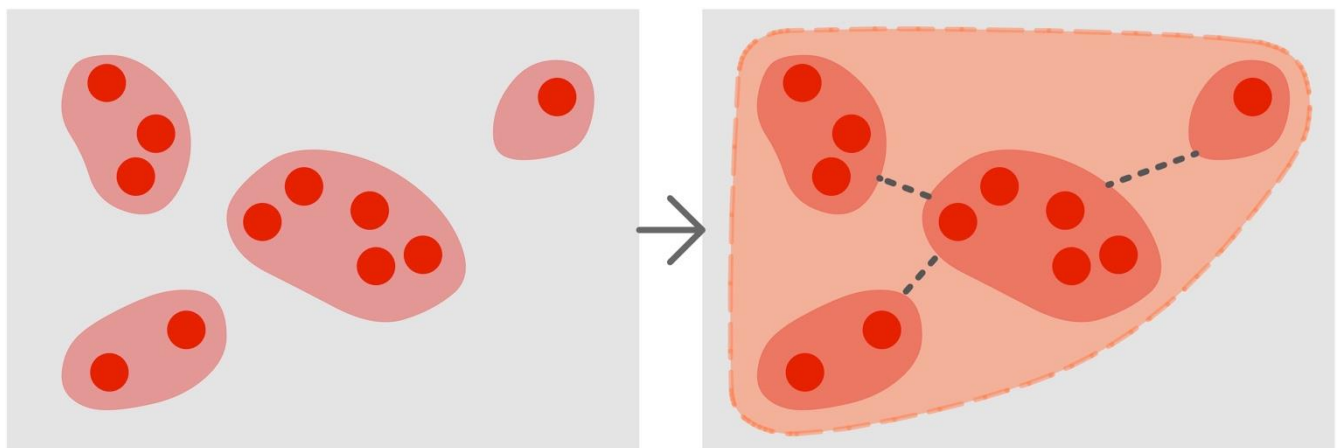
③ 既にある音信川の魅力を更に引き出し、より多くの観光客を川に誘う



- ・音信川は既に全国に誇れる水辺空間である。
(遊歩道によるネットワーク、足湯、沈下橋、橋梁群)
- ・地上から川への階段は多いが、狭く認識しにくい。

- ・既にある要素をより活かす仕掛けづくりを行う。
- ・多くの人を水辺に降ろす大階段を整備する。
- ・沈下橋や飛び石によって川の回遊性をつくる。
- ・川での居場所を増やす。
- ・川でのイベントや風物詩を創出する。

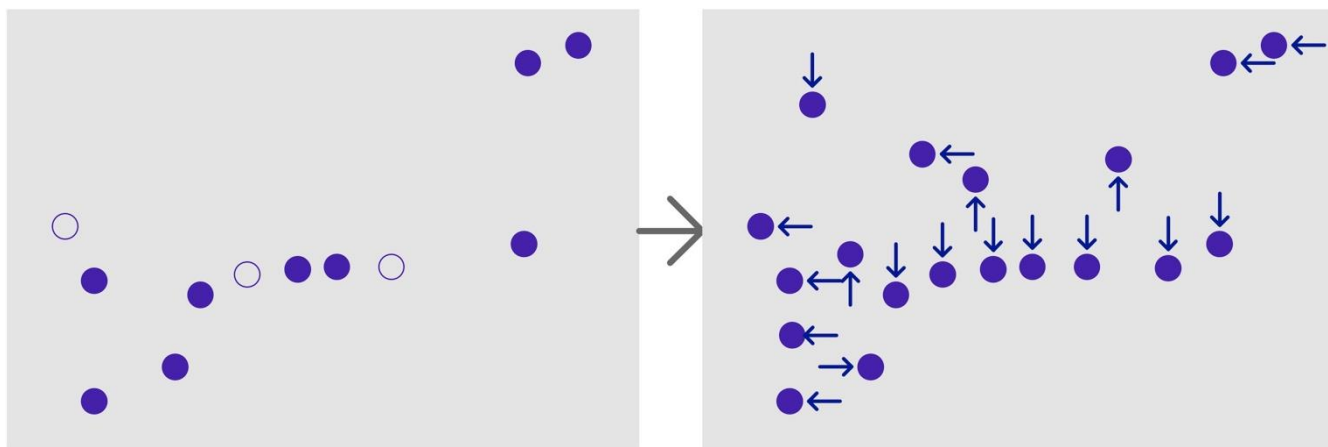
④ 温泉街にまとまりを持たせる



- ・温泉旅館ホテルの立地は4つのゾーンに分かれている。
- ・三ノ瀬や大寧寺も温泉街から比較的距離がある。
- ・温泉街としての一体感に欠ける。

- ・温泉街のまとまりある風景をつくる。
(街並み、石畳、サイン、緑化など)
- ・広域歩行者ネットワークの形成によって関係づけを強化する。
- ・三ノ瀬や大寧寺とともに街の魅力を世界に向けて発信する。

⑤滞在時間を延ばす施設づくり



- ・観光客が気軽に入れる施設に乏しい。
(喫茶店、軽食、土産物、観光案内など)
- ・名所、遊歩道、足湯などの施設だけでは観光客はそぞろ歩きをしない。

- ・旅館跡地整備にあわせて、温泉街らしいお休み処をつくる。
- ・観光案内の拠点をつくる。
- ・温泉街のなかを食べ歩きできるようなグルメの開発と、そのグルメを提供する店舗をつくる。
- ・キラードットが撮影できる場所をつくる。

(参考資料 1 3) 現状のサインシステムについての分析

(1) サインシステムの構築

観光客のみならず地域住民にとっても様々な情報を提供するサイン類は必要不可欠なものである。しかし、現状では、老朽化がみられるもの、視認性に課題があるもの、観光にきて必要と思われる場所に設置されていない（例えば、拠点にマップがあり観光スポットに解説サインがあっても、温泉街の交差点に誘導サインがないため方向や距離感がつかめない）等いくつかの課題があげられる。さらには、それぞれのサインデザインがバラバラで温泉街としての統一感がみられない。

そのため、車輻系や歩行者系のサインについて統一したデザインのサインシステムを構築することが望ましい。基本的な考えは以下のとおりである。

- ・サインの形状、素材、色彩、字体など統一感を感じられるデザインとする。
- ・わかりやすく飽きのこないデザインとする。
- ・色彩あるいは自然石や焼物の活用などで地域性を表現することを検討する。
- ・地域性を表現するがゆえに安易で稚拙なモチーフの導入等がないよう注意する。
- ・情報更新への対応、破損時も短時間で設置できるような構成という観点にも配慮する。
- ・昨今ではカーナビやスマートフォンによる位置情報を利用するためサインは必要最低限の設置とする。
- ・「案内サイン」→「誘導サイン」→「解説サイン」といった階層的なサインシステムの構築を図る。
- ・サインシステムをデザインする専門家の参画を検討する。

地域でみられる主なサインを下記に示す。



国道316号 三ノ瀬～渋木間の
風呂桶モチーフの車輻系サイン
・手前の樹木があるためサインが認識しにくい。



県道34号線 大寧寺の西方の風呂
桶モチーフの車輻系サイン
・サイン基壇に雑草がはえている。



県道34号線 大寧寺付近の標識



国道や県道にある車輻系
サイン



車輻系の観光地誘導サイン



国道と県道の交差点にある長門豊川稲荷への
車輻系誘導サイン



音信川散策マップ（案内サイン）



国道と県道の交差点にあるおとずれ夜市案内サイン



河川公園と足湯への誘導サイン



興阿寺の解説サイン



孝子・千代松の墓の解説サイン



お地蔵様のこみちにある誘導サイン
・木製サインが倒れている。



大寧寺境内の解説サイン



塔の尾公園の解説サイン



三ノ瀬・深川窯の里の解説サイン

このように車輻系サイン、歩行者系サインともにデザインはバラバラな状況が理解できる。設置者が異なっていることも原因のひとつである。

また、各観光地点での解説サインは設けられているが、観光客を各地点へと導くためのマップなどの誘導サインが不足している。ひとつの対策例であるが、ポールに取り付けるサインではなく、足元に小さなサインを歩行者ネットワークの要所に設置することでも効果はあげられると思われる。



縦長基壇形状のコンパクトな歩行者系誘導サイン（3点とも東京世田谷区おもいはせの路サイン）

- ・ポールではなく基壇形状のサインとすることで街の景観を阻害することなく案内誘導の機能を果たしている。
- ・30cm四方のサイン板であるが地図と簡単な説明が入っており、情報を十分記載できている。

(参考資料 1 4) 現状の景観についての分析

(1) 堂上福永旅館跡地

堂上福永旅館跡地は国道 3 1 6 号に面しており、標高約 6 0 m、5 8. 5 m、5 6. 5 m の 3 つの宅盤に分かれている。それらは建物解体で残されたコンクリート擁壁によって分けられているため景観的には好ましくない。

国道側にカイヅカイブキの生垣が残されている他は更地状態のため自然特性として特筆すべき事項はない。

敷地の南側の斜面地の一部は街を俯瞰する視点場となっている。

敷地の北側の山に建つ電波塔の存在が目立っている。

① 国道 3 1 6 号入口付近 (標高 5 8. 5 m 宅盤入口)

国道沿いや敷地内の擁壁際にはカイヅカイブキの生垣があるが、解体撤去時に取り残された植栽であることは否めず、景観的には好ましくない。

敷地からは周囲の山々を眺めることができる。



1a : 国道 3 1 6 号側から敷地入口をみる (左右とも)



1b : 敷地入口付近をみる



1c : 敷地入口付近から南方向をみる

②標高 58.5 m 宅盤

現在宅盤は砂利敷きで駐車場として利用されている。宅盤の境界にはコンクリート擁壁が残されており景観的に好ましくない。

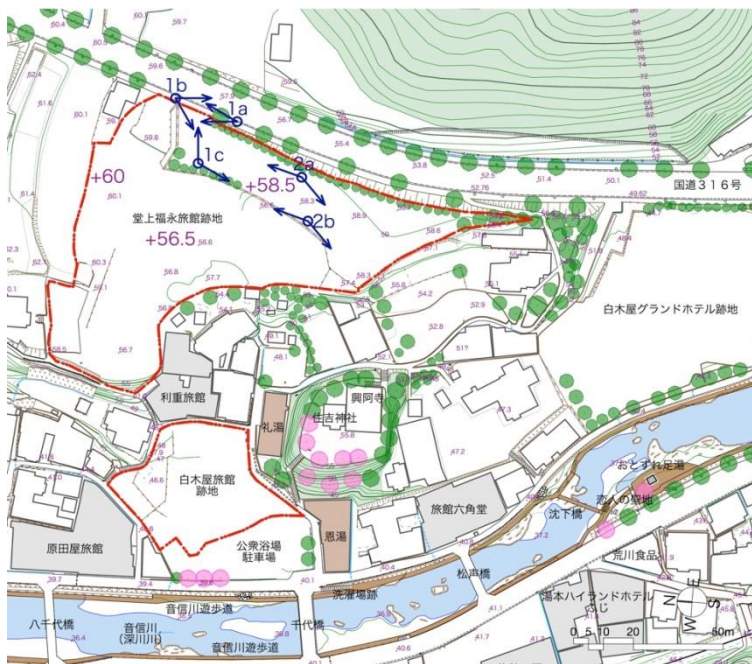
敷地の南や西方向は視界を遮るものがないため周囲の山々や街並みの一部を眺めることができる。



2a: 標高 58.5 m 宅盤から周囲をみる



2b: 標高 58. 5 m 宅盤から 56. 5 m 宅盤をみる



キープラン

③標高58.5m宅盤の南側

宅盤の西側では視界が広がり開放的な視点場のひとつとして位置づけられる。音信川をみることはできないが周囲の山々とともに温泉街の建物を見ることができる。



3a：標高58.5m宅盤の南側から温泉街方面をみる



3b：標高58.5m宅盤から北方向をみる

④標高60m宅盤

敷地の中では最も高いレベルの場所である。北側の隣地境界にはコンクリートブロック塀などの工作物があり、駐車場や民家がそのまま見えている。

北側の山は竹が生い茂っており、中腹には電波塔がある。

下の宅盤との境界にあるコンクリート擁壁が景観的に好ましくない。



4a：標高60m宅盤の入口



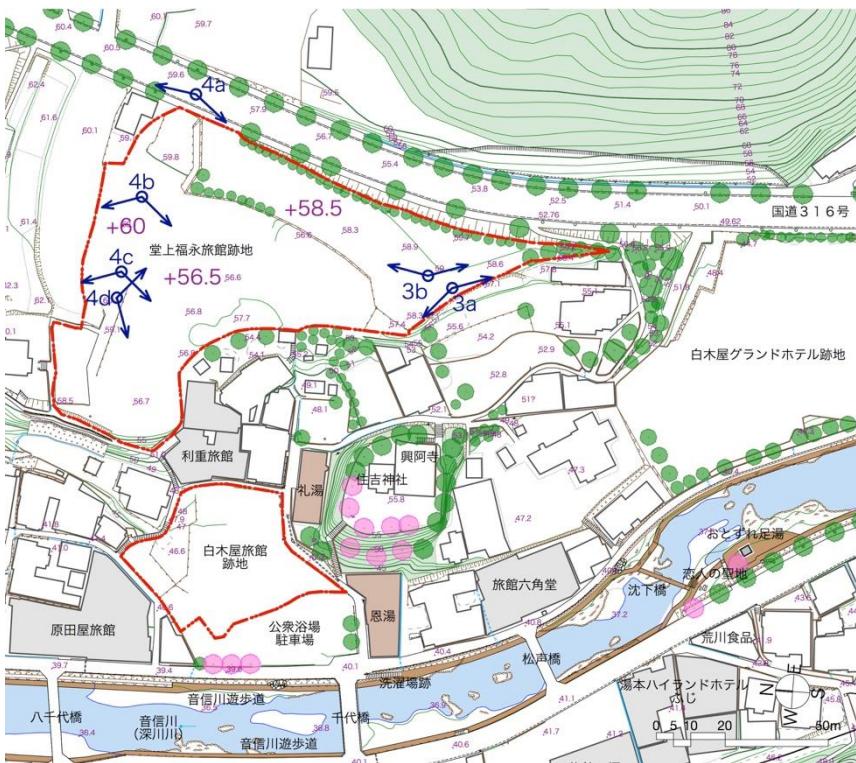
4b：標高60m宅盤から標高56.5m宅盤方向をみる



4c：標高60m宅盤から西方向をみる



4d：標高60m宅盤西側から標高56.5m宅盤をみる

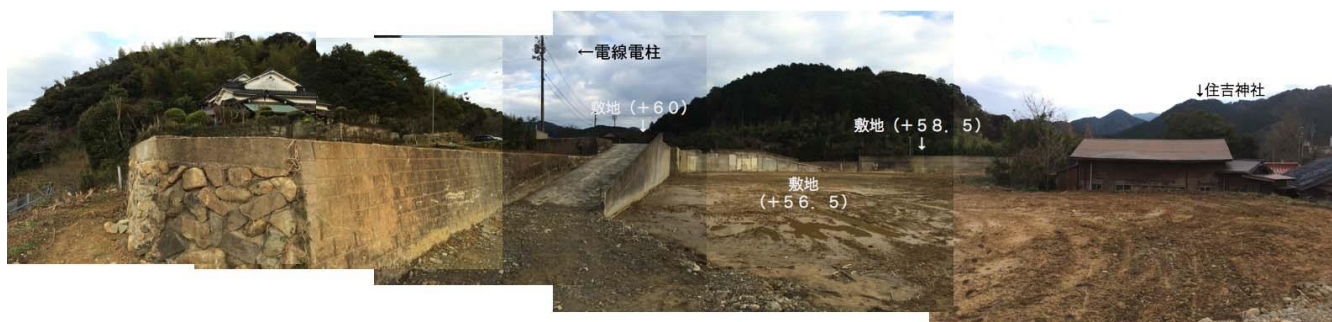


キープラン

⑤標高56.5m宅盤北西部

敷地の中で周囲に樹木など視界を遮るものがなく開放的な場所である。特に敷地境界際は湯本大橋や湯本観光ホテル西京、地域のシンボル恩湯、湯本ハイランドホテルふじが見え、近傍には利重旅館がある。

地域特有の赤褐色の瓦屋根が特徴的である。



5a：標高56.5m宅盤北西部から国道側をみる



5b：標高56.5m宅盤北西部から温泉街をみる

⑥標高56.5m宅盤

宅盤の北～東～南をコンクリート擁壁で囲まれている。敷地境界の西側は民有地で3m程度の落差があり、建物や樹林で占められているが、廃屋や管理されていない樹林のため景観が良いとはいえない。また、階段などの動線も確保されていない。



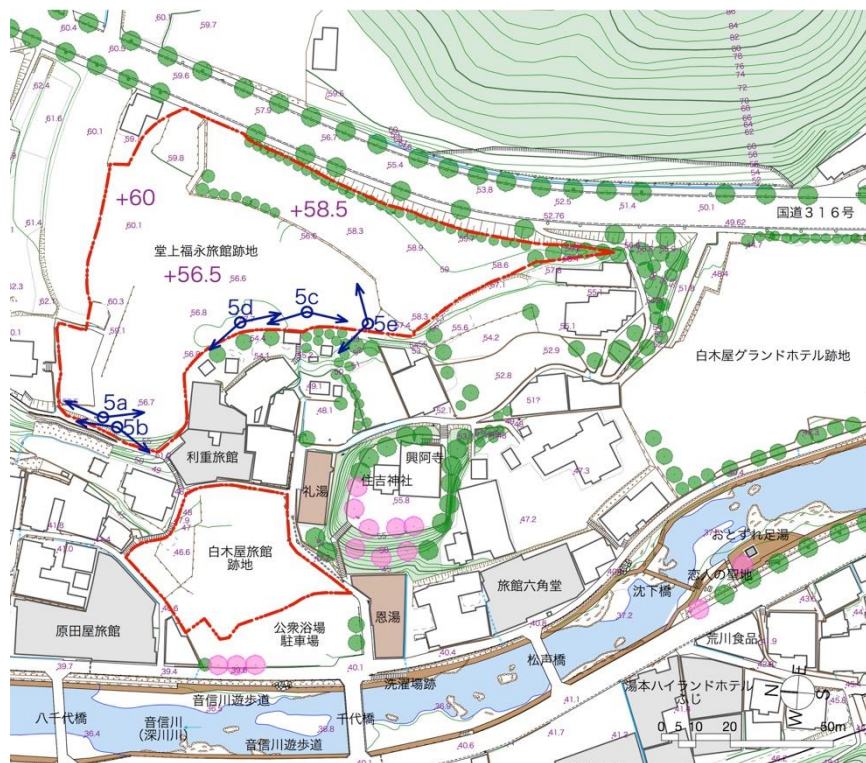
5c：標高56.5m宅盤から西方向をみる



5d：標高56.5m宅盤から南西方向をみる



5e : 標高 56.5 m 宅盤から東方向をみる



キープラン

(2) 白木屋旅館跡地

白木屋旅館跡地は長門湯本温泉街のシンボルである恩湯・礼湯が隣接しており、周囲を住吉神社や温泉旅館に囲まれた立地である。

現状は建物を撤去解体したままの状態で放置された更地となっている。敷地内は約7m程度の高低差があり、二段の宅盤でできている。

各宅盤は擁壁で構成されている。コンクリート擁壁と石積み擁壁が混在しており、古い石積み擁壁は歴史が感じられる。

① 代橋からの景観

千代橋からは恩湯や音信川とともに敷地を見ることができる。これは広告写真など温泉街を印象づける最も重要なアングルといえる。



6a：千代橋から敷地をみる（温泉街の最も重要なアングルのひとつ）

② 敷地内の景観

敷地内の二つの宅盤はコンクリート擁壁と石積み擁壁で構成されており、更地の状態である。恩湯からは最大7m程度の高低差があるため眺めが良い。



6b：礼湯前から敷地をみる



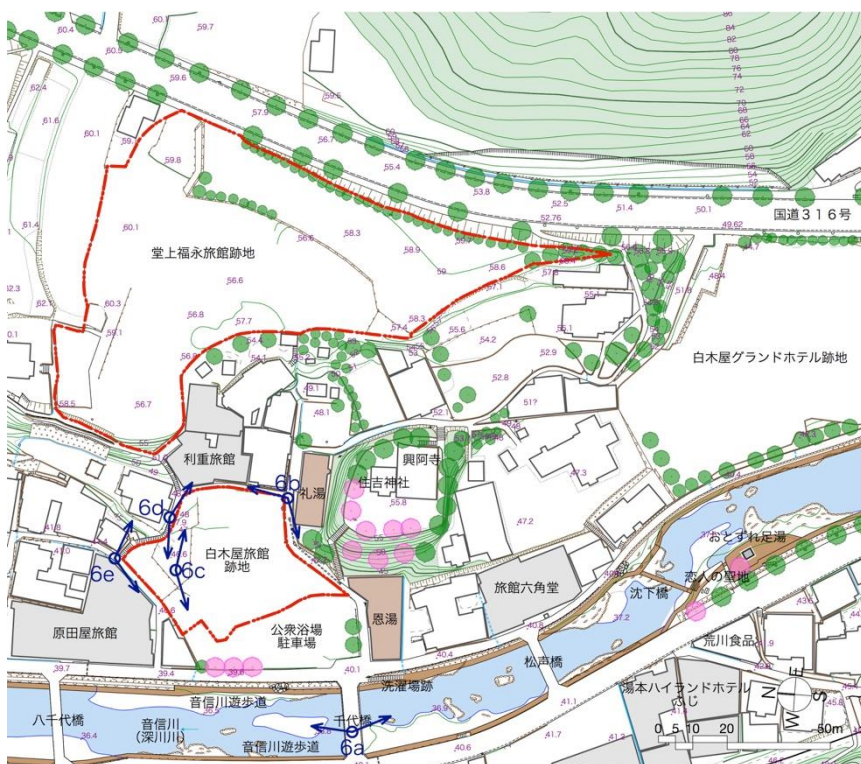
6c：敷地内の上の宅盤から恩湯・礼湯方向をみる



6d : 利重旅館前の路地から敷地をみる



6e : 敷地北側より



キープラン

6) 現地踏査

対象敷地周辺の状況について現地踏査した際の写真を用いて簡略に解説する。

(1) 恩湯・千代橋周辺



A1: 千代橋左岸から恩湯方向をみる

- ・地域のシンボルとなる場所で恩湯、音信川、住吉神社の柱を見ることができる。
- ・温泉街にとって白木屋旅館跡地の整備がとても重要である。
- ・音信川遊歩道沿いに洗濯場跡地があり、川とともに歩んだ昔の生活をうかがうことができる。
- ・住吉神社境内から恩湯の上空をとる電線電柱が景観的に好ましくない。



A2: 千代橋下流右岸より恩湯をみる

- ・白木屋旅館跡地、住吉神社、恩湯、千代橋を見ることができる。
- ・住吉神社がある丘の斜面補強コンクリート枠が景観的に好ましくない。



A3: 千代橋下流右岸より左岸をみる

- ・音信川の水面や遊歩道をみることができる。
- ・左岸護岸は石積みであるが道路幅員拡幅のため張り出し構造となっている。アーチ形状が個性的である。
- ・左岸は張り出し道路となっているため街路樹がない。
- ・沿道の街並みに統一感を感じられない。
- ・背後に山が見られるが地域でも最も山が迫っている区間である。山の斜面の緑が一部育っていない範囲がある。



A4：千代橋下流左岸より住吉神社をみる
・コンクリート護岸である。
・駐車場の車輛が直接見えている状況が
景観的に好ましくない。



A5：千代橋上流左岸より音信川をみる

- ・旅館六角堂と湯本ハイランドホテルが中層建物で存在感がある。
- ・音信川の岩が特徴的な河川景観となっている。
- ・音信川左岸沿道には電線電柱がある。

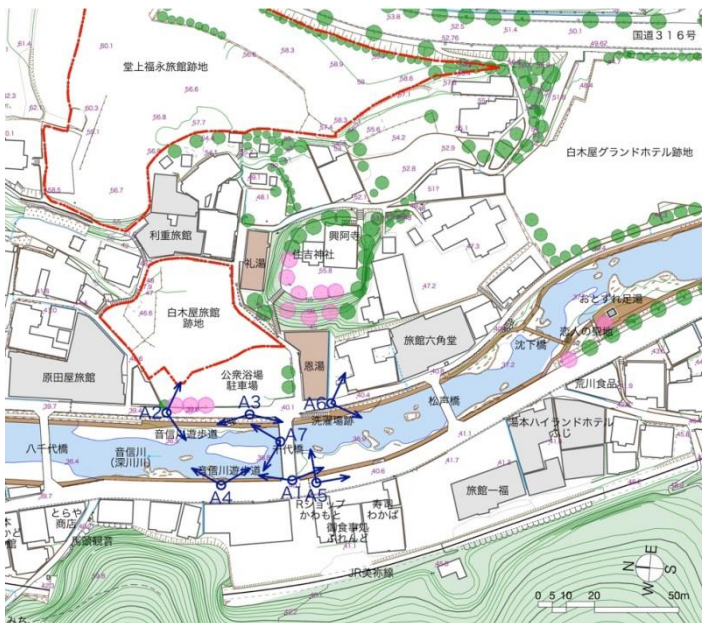


A6：千代橋上流右岸側

- ・道路幅員は狭く車輛の通行が自然に限定されている。
- ・歩行者利用にとっては適度な幅員である。
- ・恩湯に隣接して趣のある和風住宅がある。
- ・対岸は自然石護岸であるがコンクリート枠補強がある。街路樹はない。



A7: 千代橋より下流をみる
 ・白色の中層建物や左岸の張り出し道路のアーチの存在感がある。
 ・左岸には電線電柱がある。



キープラン

(2) おとずれ足湯周辺



- B1：曙橋より足湯方向をみる
 ・左岸街路樹の樹形が悪い。
 ・中層建物の旅館の存在感がある。



- B2：松声橋より足湯方向をみる
 ・護岸に配管が見えている。
 ・左岸の中層建物の存在感がある。



- B3：沈下橋右岸より足湯方向をみる
 ・護岸上の道路は狭いが歩行には適度な幅員である
 ・照明施設の老朽化がみられる。



- B4：川越しに足湯と恋人の聖地をみる
 ・足湯は音信川遊歩道のシンボルのひとつである。
 ・右積み護岸に敷設された配管が見えている。
 ・親水性のある階段護岸が良い。



- B5：音信川右岸の松声橋～沈下橋間の沿道
 ・沿道には住宅がある。



- B6：音信川右岸の沈下橋への階段付近
 ・石積みの表情が多くみられるなかに転落防止柵がコンクリート製の擬木である。

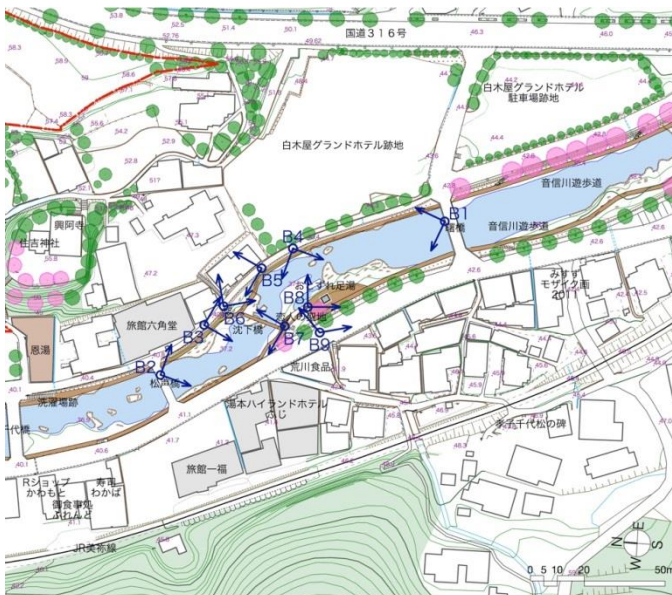


B8：おとずれ足湯

- ・河川敷の足湯は温泉街のシンボルとなっている。
- ・対岸のヤシの木が温泉街として違和感を与える。



- 壇となっており、高さ1.1m程度の転落防止柵が設置されている。歩道は、乗用車車輦がみられる。歩道が狭く街路樹（ヤナギ）の



キープラン

(3) きらきら橋周辺



C1: 曙橋よりきらきら橋をみる
 ・川をおおうサクラが美しい。
 ・川の水と樹木、地被、山の緑が美しい。



C2: きらきら橋 (音信川左岸側)
 ・屋根がかけられベンチがある歩行者専用橋である。



C3: きらきら橋より下流をみる
 ・川の水と岩場、川をおおう桜並木と遊歩道の石畳、など音信川のなかでも美しい視点場のひとつである。



C4: きらきら橋～曙橋間の右岸側の道路
 ・緑で覆われた桜並木の足元を歩くことができる
 ・車の交通量は極めて少ない。駐車車両がみられる。



C5: きらきら橋左岸下流
 ・道路と遊歩道のレベル差が小さい。擬木転落防止柵の存在感がある。
 ・道路幅員が広い区間は駐車場となっている。



C6: きらきら橋左岸上流にあるバス停
 ・電線電柱が通っている。

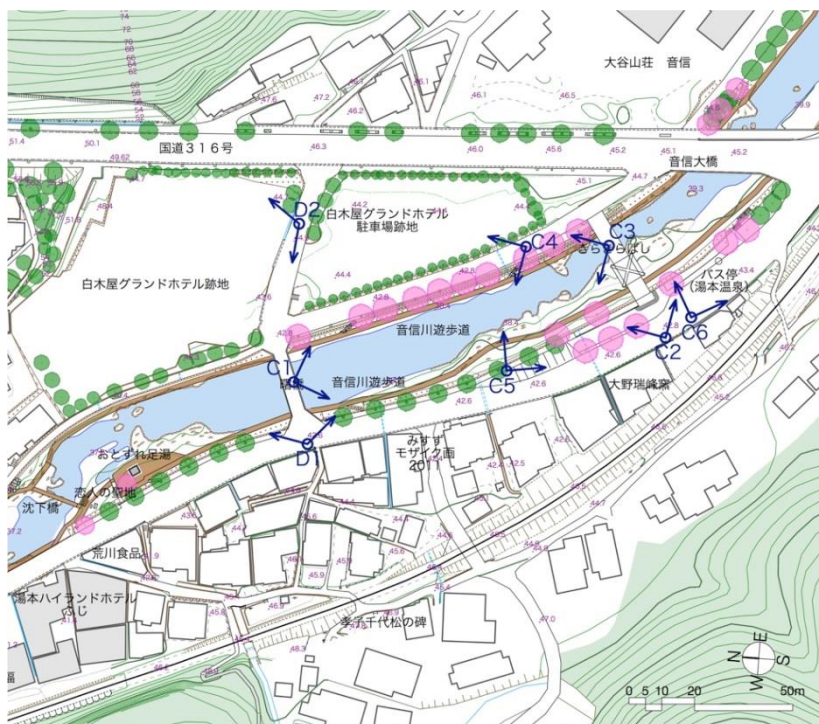
(4) 白木屋グランドホテル跡地周辺



D1：曙橋左岸より白木屋グランドホテル跡地方向をみる
 ・現在は更地となっている。音信川沿いの桜並木とともに背後の山並みが美しい。



D2：白木屋グランドホテル跡地から北方向をみる
 ・跡地の北側や東側（国道側）は大きな高低差がある。
 ・跡地の北側の樹林には大きな高木がみられる。



キープラン

(5) 礼湯周辺



E1: 礼湯裏

- ・礼湯裏には棚状の民有地がある。
- ・石積み、竹林、樹林が美しい。
- ・礼湯裏には自動販売機が設置されている。

E2: 礼湯

- ・恩湯とともに地域の公衆浴場である。



E3: 礼湯裏の棚状の民有地

- ・写真中央奥に堂上福永旅館跡地がある。



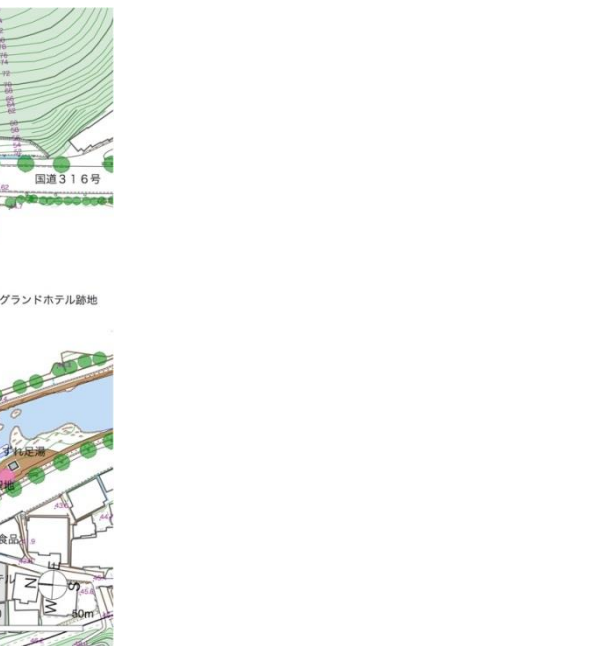
E4: 礼湯裏の棚状の民有地を南側よりみる

- ・礼湯裏の設備機器が見えている。
- ・棚状の民有地には電柱が立っている。



E6：住吉神社裏
・住宅が迫っている。この区間は砂利道となっている。

E7：利重旅館脇から堂上福永旅館跡地へのルート
・利重旅館と住宅の間の狭小な坂道は、恩湯や礼湯周辺堂上福永旅館跡地への動線となっている。



キープラン

(6) 住吉神社



F1：恩湯後方にある住吉神社に向かう階段
・住吉神社の男坂となる。
・急な階段であるが観光資源としては魅力的である。



F2：住吉神社裏にある階段
・住吉神社の女坂となる。



F3：住吉神社と興阿寺



F4：境内
・サクラが植えられ地域の憩いの場のひとつである。



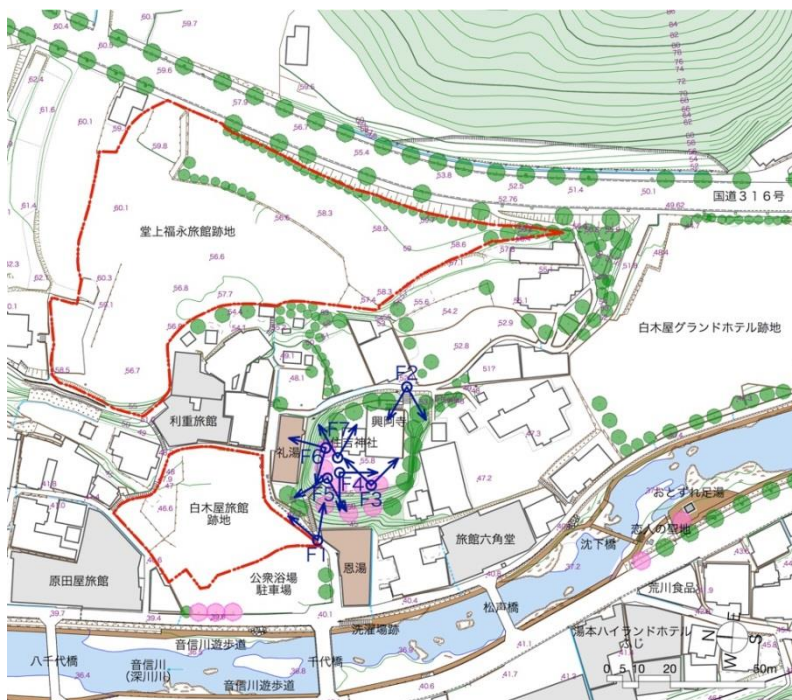
F5：境内からみる恩湯と音信川
・樹林越しに恩湯や音信川が俯瞰できる。



F6：境内からみる白木屋旅館跡地
・礼湯、白木屋旅館跡地、温泉街の街並みが俯瞰できる。赤褐色の瓦屋根が特徴的である。



F7：お地藏様
・いくつものお地藏様があり地元住民が大切にしている状況がうかがえる。



キープラン

(7) 堂上福永旅館跡地～住吉神社～白木屋グランドホテルの間の地区



G1：堂上福永旅館跡地標高58.5m宅盤南西にある棚田の緑地をみる

- ・石積みによる数段の棚田地形が残されている。
- ・広がりのある開放的な場所で、樹木や下草が美しい。
- ・恩湯や礼湯周辺から路地を介して堂上福永旅館跡地への動線になっている。



G2：棚田の緑地の北側付近をみる

- ・緑の中に狭小な道があり、のどかな雰囲気となっている。



G3：棚田の緑地と住吉神社女坂の中間地点をみる

- ・各住宅への分かれ道。
- ・住宅の隙間から白木屋グランドホテル跡地がみえる



G4：白木屋グランドホテルの北側隣地の丘にある通路

- ・住宅と樹林に囲まれた路地は趣がある。



G5：白木屋グランドホテル北側隣地の丘からの俯瞰

- ・冬期の落葉時期には白木屋グランドホテルと音信川をみることができる。

(8) 国道316号沿道



H1：白木屋グランドホテル駐車場跡地付近をみる
・白木屋グランドホテル跡地のカイヅカイブキの
生垣が残っている。

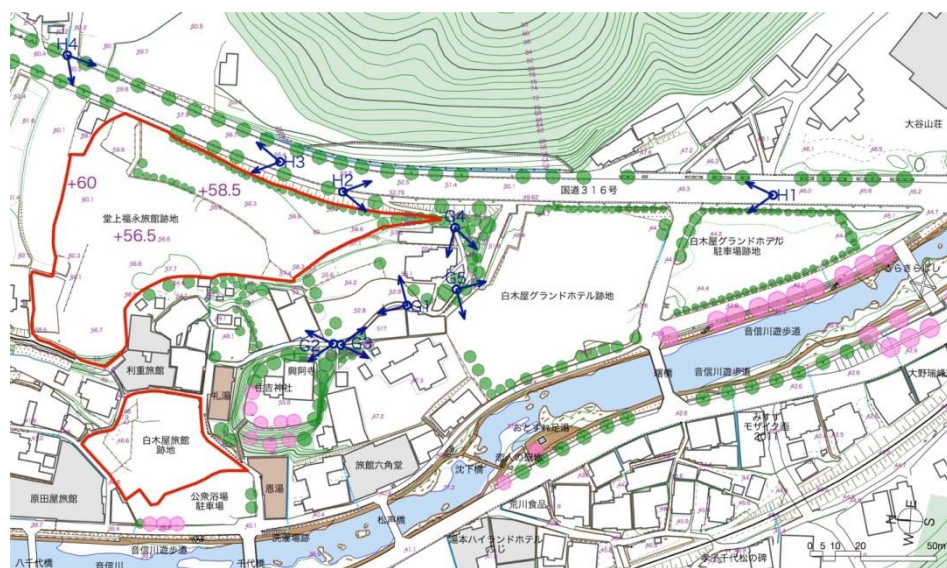
H2：切通付近をみる

- ・両側は急斜面の切通となっている。
- ・札湯へと抜ける路地へ接続する坂道がある。



H3：堂上福永旅館跡地付近をみる
・切通部の樹木と街路樹のケヤキがあり緑豊かな道路景観となっている。

H4：堂上福永旅館跡地入口の北側からみる
・地域の国道区間で最頂部付近である。
・沿道の駐車場が国道から直接見えている。



キープラン

(参考資料 15) 長門湯本温泉へのアクセス状況

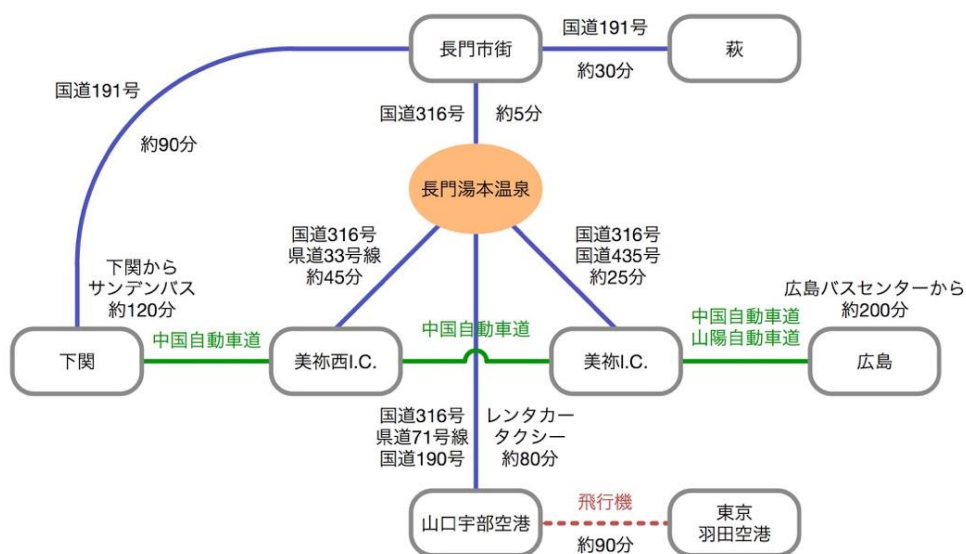
長門市の道路網は日本海の海岸線に沿った国道191号と市の中央部を縦断する国道316号を主軸として、国道491号、主要県道、一般県道、広域農道によって構成されており、国道316号の当地区の日交通量は約12,000台である。

山陰道は萩市～三隅区間のみ開通のため広域からの高規格道路でのアクセスは不十分な状況となっている。現在俵山地区を結ぶ区間が建設中で将来的には下関方面と結ばれることになる。

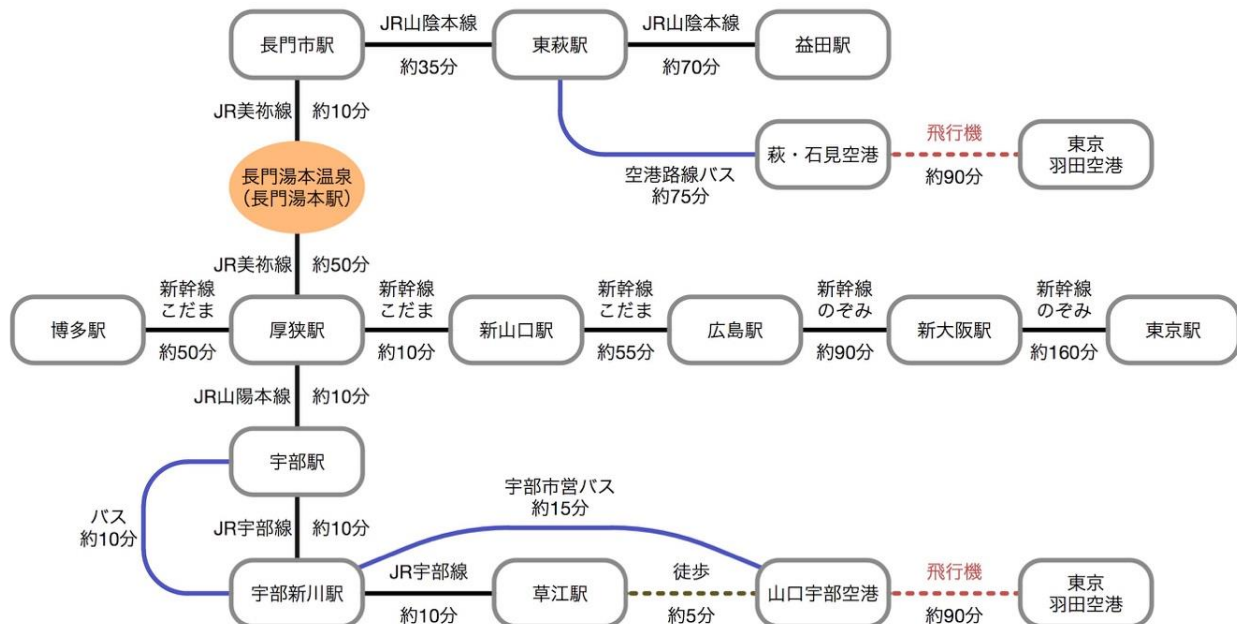


長門市の広域交通網（出典：「長門市都市計画マスタープラン」平成27年3月 長門市）

長門湯本へのアクセスする交通手段は車、鉄道、バスとなる。車では長門市街から約5分、山口宇部空港から約80分となり、いずれも国道316号からのアクセスとなる。鉄道では山口宇部空港の最寄りの駅からJR美祢線などで約100分、新幹線厚狭駅からJR美祢線で約60分となる。



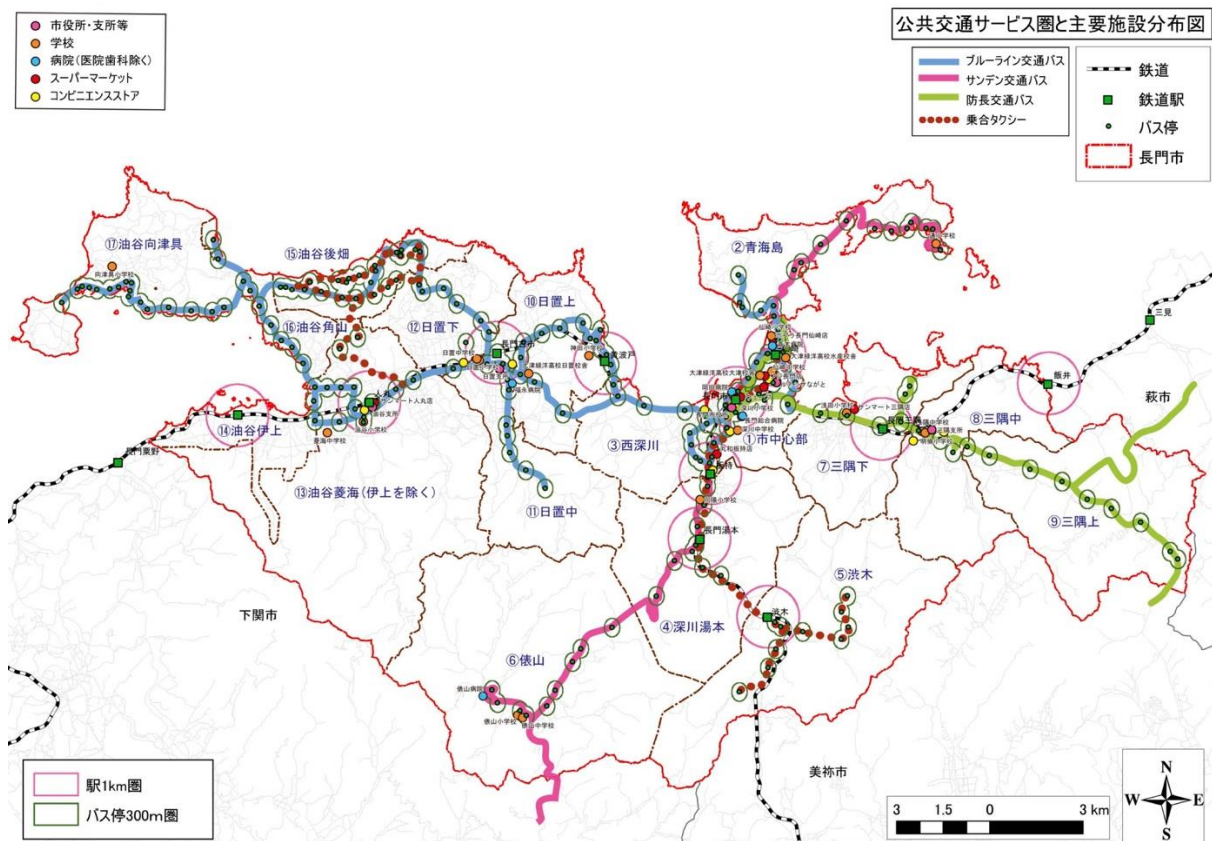
長門湯本への車での所要時間



長門湯本への鉄道での所要時間

バスは国道316号から俵山方面へと至る県道34号線の「富士第一交通及び幸進堂」付近に湯本温泉入口バス停があり、サンデン交通によって下関駅～大泊、小月駅～大泊、俵山温泉～通・青海、俵山病院前～通・青海などの路線が通っている。

きらきら橋と音信大橋との間にある湯本温泉バス停はサンデン交通による通行きが1日2本、青海行きが1日1本の運行で、渋木・真木地区への乗合タクシーが1日3本の運行となっている。



公共サービス圏と主要施設分布図（出典：「長門市地域公共交通計画」平成25年3月 長門市）

(参考資料16) 観光客の意識・行動による必要とされる情報および主な情報提供手段・媒体

AISCEASモデル	観光客の意識・行動		情報を得る 時期・場所	必要とされる情報	主な情報提供手段・媒体
注目(Attention)	魅力的な観光地、アウトドアやレクリエーション活動、文化・体験活動等を知る・認知する(イメージ中心)。		自宅等で	地域の特色、旬の情報、その地域でしかできない体験・交流等(イメージ中心)	マスメディア(テレビ等の旅番組、一般情報誌、広告・キャンペーンなど)
興味・関心(Interest)	特定の観光地や特定の旅行・観光活動に関心・興味を持つ。			ある程度詳しい地域の情報 お勤めの情報・口コミ情報 かかる時間・費用 自身の趣味・嗜好に合う情報 バリアフリー等の情報	旅行雑誌・ガイドブック
検索(Search)・	行き先の観光情報を比較検討する				テーマ別の旅行関係誌(登山、自然、文化、ライフスタイル誌など)
比較(Comparison)・					インターネット(特定テーマのポータルサイトや旅行サイト、地域のサイト等)
検討(Examination)					旅行会社
				知人などからのお勤め・口コミ	
行動(Action)	計画を立てる	観光地の魅力、楽しみ方を調べる	自宅等で	観光地の独自の魅力 宿泊施設、観光施設 その季節の旬の情報 自身や同行者の趣味や嗜好に合ったレクリエーションや体験活動等	インターネット(地域のサイトなど)、市販地図、旅行雑誌・ガイドブック
		実際の情報を調べる。		経路、費用、お勤め情報等	
	移動する	行き方や経路を調べる	空港や駅、道路上(標識・案内板)	公共交通の乗り継ぎ・時刻表 わかりやすい道路案内表示・地図 移動中に楽しめる景色、飲食、買い物ができる立ち寄り先	空港や駅、サービスエリアや道の駅等での案内サービス(パンフレットや案内地図の入手) 道路上の案内標識 カーナビ、携帯電話webサイトなど
		移動中に立ち寄る観光資源・施設を調べる	サービスエリアや道の駅等		
	観光地を楽しむ	主要な観光スポットを巡る	地域の観光案内所 まち歩き・散策中 観光施設 宿泊施設等	現在地 周辺の休憩所・トイレ・駐車場等 次の行き先への経路 地域の魅力(地域らしさ) その季節の魅力 飲食店・土産品店等、お薦め情報等	情報観光案内板やサイン 観光案内所や主要な観光施設等での案内(口頭) パンフレット・案内地図等の配布物 携帯電話のウェブサイト 携帯型情報端末(PDA等)
		まち歩きや散策をする			
		飲食や買い物を調べる			
		宿泊する		宿泊先への経路	観光案内所や主要な観光施設等での案内(口頭) パンフレット・案内地図等の配布物 携帯電話のウェブサイト
		レクリエーションや体験活動をする		開催地への経路 地域の魅力(地域らしさ) その季節の魅力 参加できるイベント・体験プログラムの情報	観光案内所や主要な観光施設等での案内(口頭) パンフレット・案内地図等の配布物 携帯電話のウェブサイト
	共有(Share)	来訪した経験(思い出や発見・感動など)を他者に伝える・広める	自宅等で		口頭等での伝達 インターネットへの投稿・ブログでの発信など

※消費行動モデル「AISCEAS」を基に財団法人日本交通公社作成